

ユーザーズマニュアル

**MagicProcessorK**  
**48v24G-D**

有限会社 アイオーテック


[www.iotechnic.co.jp](http://www.iotechnic.co.jp)

〒226-0027 神奈川県横浜市緑区長津田 6-21-13 TEL (045) 532-5114

## 目 次

1-1. はじめに	<a href="#">2</a>
1-2. 各部名称	<a href="#">3</a>
2-1. インストール	<a href="#">4</a>
2-2. アプリケーションの実行方法	<a href="#">6</a>
2-3. コマンドラインオプションの説明	<a href="#">6</a>
3-1. 本体の測定起動方法（オフライン）	<a href="#">7</a>
3-2. 収録データを素早く確認	<a href="#">10</a>
3-3. 収録データのコピーと確認	<a href="#">10</a>
4-1. 生データグラフ	<a href="#">12</a>
4-2. 生データグラフの編集	<a href="#">13</a>
4-3. 生データ表	<a href="#">14</a>
4-4. 生データの修正	<a href="#">14</a>
4-5. 成分流速2次元グラフ	<a href="#">15</a>
4-6. 処理結果グラフ	<a href="#">15</a>
4-7. 処理結果グラフの編集	<a href="#">16</a>
4-8. 処理結果表	<a href="#">17</a>
4-9. 処理結果表の編集	<a href="#">17</a>
4-10. 処理結果の修正	<a href="#">18</a>
4-11. パワースペクトル	<a href="#">18</a>
5-1. 処理結果項目	<a href="#">20</a>
6-1. 印刷	<a href="#">21</a>
6-2. プリンターの設定	<a href="#">21</a>
7-1. メニュー [ファイル]	<a href="#">22</a>
7-2. メニュー [編集]	<a href="#">23</a>
7-3. メニュー [表示]	<a href="#">23</a>
7-4. メニュー [処理]	<a href="#">24</a>
7-5. メニュー [ウィンドウ]	<a href="#">24</a>
7-6. メニュー [ヘルプ]	<a href="#">25</a>
7-7. ポップアップメニュー（右クリックメニュー）	<a href="#">25</a>
7-8. ツールバー	<a href="#">26</a>
7-9. ステータスバー	<a href="#">26</a>
8-1. ファイル	<a href="#">27</a>
8-2. 処理結果Rファイルを開く	<a href="#">28</a>
8-3. 測定日時の更新	<a href="#">29</a>
8-4. 測定時間-測定間隔の編集	<a href="#">29</a>
8-5. テキストデータファイルに変換	<a href="#">30</a>
8-7. ファイルのサイズ変更	<a href="#">31</a>
8-8. 初期化ファイル	<a href="#">32</a>
8-9. 測定条件設定ファイル（Index62.txt）	<a href="#">33</a>
9-1. 表をExcelのセルに読み込むには	<a href="#">37</a>
9-2. Excelで表の貼り付け	<a href="#">37</a>
9-3. Excelでグラフの貼り付け	<a href="#">37</a>
9-4. Wordで表の貼り付け	<a href="#">37</a>
9-5. Wordでグラフの貼り付け	<a href="#">37</a>
10-1. 測定タイムチャート	<a href="#">38</a>

## 1-1. はじめに — [関連項目 [インストール方法](#) [アプリケーションの実行方法](#)]

MagicProcessorK48v24G は、WAVE HUNTER24Gシリーズ(WH-600Gシリーズ)、HUNTER JUNIOR24Gシリーズ(HJ-600Gシリーズ、“本体”とも表記します)によって作成された処理結果Rファイル(WH\*\*\*R.H10、\*\*\*は3桁の機械番号)と、マスターファイル(WH\*\*\*M.H10)から、作表とグラフの描画を行います。MagicProcessorK48v24Gから新しく、処理結果項目として、[データ異常判定\(グリーンランプ機能\)](#)が追加されました。**このパッケージに処理機能はありません**

### ビルトインMgicProcessorの処理項目

測定データの処理は、本体にビルトインされたMagicProcessorKで実行されています。下表の項目が本体で処理され、SDカードに収録されています。

波高処理項目	最高波高・周期、1/10最大波高・周期、有義波高・周期、平均波高・周期、波数、水深、 $\eta$ rms、歪み度(Skewness)、尖鋭度(Kurtosis)、水位、長周期最高波高・周期、長周期有義波高・周期
波向処理項目	平均波向、主波向、平均分散角、方向集中係数、波峯長パラメーター
流速処理項目	平均流速、平均流向、平均E流速、平均N流速
気象海象処理項目	最大瞬間風速・風向、平均風速・風向、気圧、気温、水温

### 表示機能

Windowsの機能(色、フォントの選択、マルチウインドウなど)を、フルに生かした表と、グラフの表示ができます。上表の項目の中から、自由に選んで表示できます。

### 印刷機能

Windowsの印刷機能(色、フォント、用紙、縦横印刷の選択など)を、そのまま利用して、表とグラフの印刷ができます。グラフや表は、マウスでコピーして、WordやExcelのドキュメントに、貼り付けることができます。

1-2. 各部名称 - [関連項目 [生データグラフ](#) [生データ表](#) [処理結果グラフ](#) [処理結果表](#) [パワースペクトル](#) [成分流速2次元グラフ](#)]

タイトルバー

メニュー

ツールバー

処理結果のグラフ

パワースペクトル

生データ表

水圧	E流速	N流速	水位
g/cm <sup>2</sup>	cm/s	cm/s	cm
2415,	10,	17,	2323
2421,	7,	22,	2331
2427,	8,	27,	2340
2433,	10,	31,	2365
2435,	10,	32,	2364
2435,	10,	30,	2375
2434,	12,	26,	2388
2432,	11,	21,	2369
2427,	11,	15,	2340

成分流速2次元グラフ

生データのグラフ

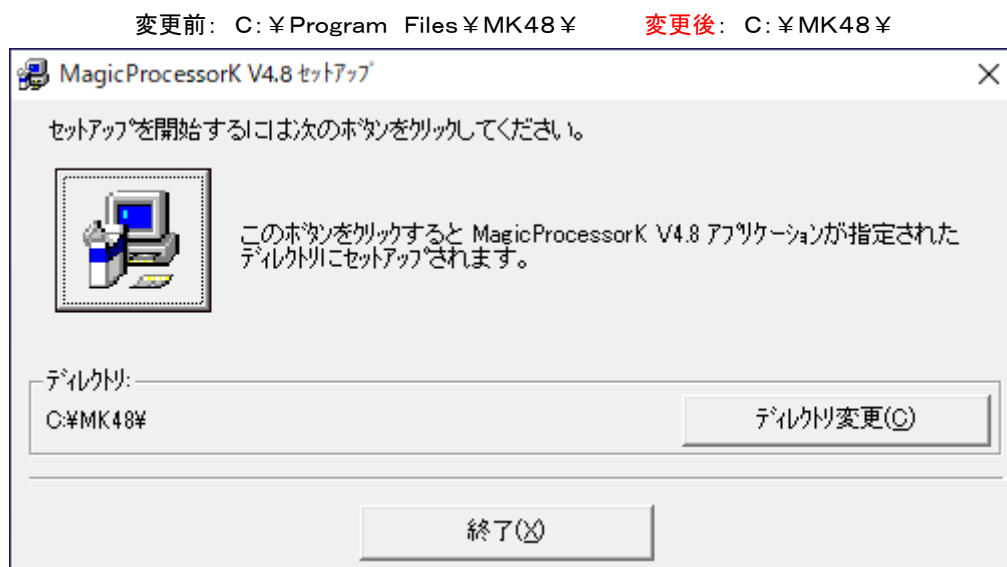
スクロールバー

ステータスバー

状態表示

## 2-1. インストール - [関連項目 [アプリケーションの実行方法](#)]

配布のCDの中の”Setup. exe“を右クリックして[管理者として実行]を指定し、実行して下さい。セットアッププログラムの指示に、応答してインストールして下さい。インストール中に、下図の[ディレクトリの変更]ボタンをクリックして、インストール先のディレクトリ(フォルダ)を下記のように変更してください。



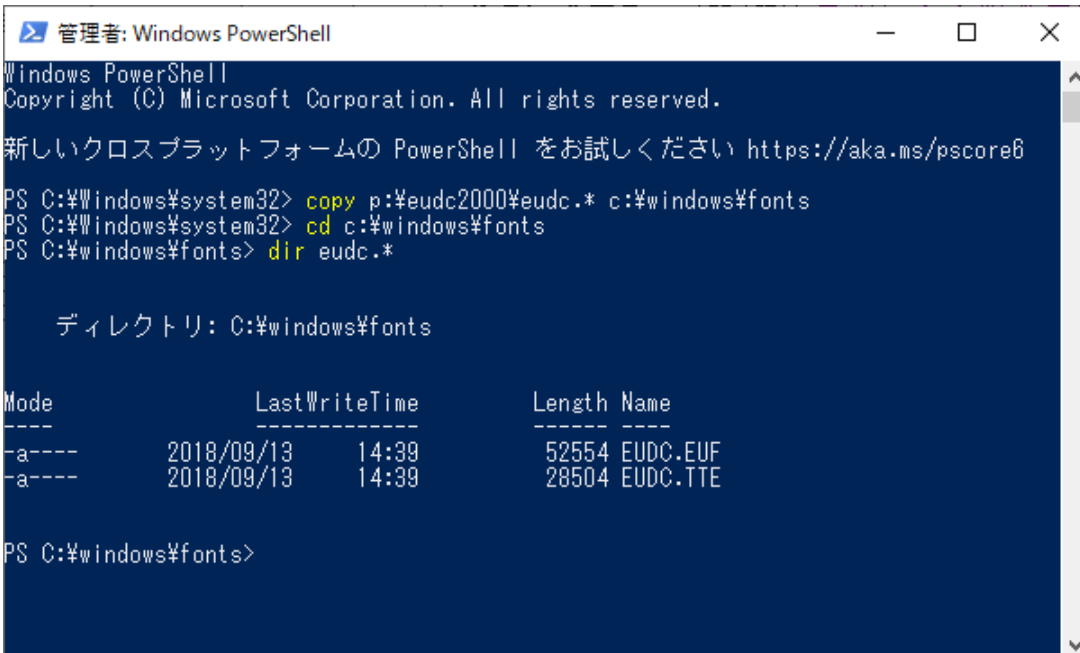
注1. “システムにある一部のシステムファイルが最新のものでないので、セットアップを続行できません。……”の問い合わせがありましたら、[OK]をクリックして下さい。“Windowsを再起動しますか？……”の問い合わせに、[はい]をクリックします。Windowsが再起動されましたら、セットアップを再度、行います。

注2. “コピーしようとしているファイルのバージョンは、システムに存在するファイルより古いか、または同じです。……”の問い合わせには、[はい]をクリックしてください。

### 外字の登録

1. パソコンの画面の左下隅の[スタート]を右クリックして、[Windows PowerShell(管理者)]を実行します。下図のように、配布CD(例では、pドライブ)の”eudc2000”フォルダのファイル(eudc. tteと、eudc. euf)を、パソコンのc:\windows\fontsにコピーします。

例: copy p:\eudc2000\eudc.\* c:\windows\fonts



```
管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新しいクロスプラットフォームの PowerShell をお試しください https://aka.ms/pscore6

PS C:\Windows\system32> copy p:\eudc2000\eudc.* c:\windows\fonts
PS C:\Windows\system32> cd c:\windows\fonts
PS C:\windows\fonts> dir eudc.*

ディレクトリ: C:\windows\fonts

Mode                LastWriteTime         Length Name
----                -
-a----             2018/09/13   14:39         52554 EUDC.EUF
-a----             2018/09/13   14:39         28504 EUDC.TTE

PS C:\windows\fonts>
```

2. 同様に左下隅の[スタート]を右クリックして、[ファイル名を指定して実行]で、“eudcedit”とキーインして、実行します。登録した外字が、下図のように、表示されれば完了です。[OK]をクリックして”cm<sup>2</sup>”の文字を確認して下さい。“外字エディタ”を終了して、インストールを終了します。



## システム日時の表現

MagicProcessorK<sup>TM</sup>は、下の日時の表現しか扱えません。Windowsの設定が、異なる場合は変更して下さい。[スタート]を右クリックして[ファイル名を指定して実行]で、“control”とキーインして、“コントロールパネル”を実行します。“コントロールパネル”→アイコン[地域]→タブ[形式]→[日付(短い形式)]と、[時刻(長い形式)]を下のように合せて下さい。

[日付(短い形式)] yy/MM/dd

[時刻(長い形式)] H:mm:ss

## 動作確認OS

Windows8、Windows10、Windows11


## インストールフォルダ

MagicProcessorK<sup>TM</sup>は、“C: ¥MK48¥”のフォルダにインストールします。

## 2-2. アプリケーションの実行方法 - [関連項目 [初期化ファイル](#)]

MagicProcessorKは、下記の手順で、デスクトップにショートカットを作成してから、実行します。

1. ファイル“C: ¥ MK48 ¥ MK48. EXE”を、Windowsの“デスクトップ”に、ドラッグアンドドロップし、ショートカットを作成します。

2. “デスクトップ”にできた、アイコン  をダブルクリックしてMagicProcessorKを実行します。

“デスクトップ”のアイコン“MK48. EXEへのショートカット”の右クリックで、**[プロパティ]**を選択してクリックします。タブ**[ショートカット]** - **[リンク先]**にコマンドラインオプションを指定できます。下記の”コマンドラインオプションの説明”を参考にしてください。右図の例(0020=16進数)では、保護状態でMagicProcessorKを実行します。何もコマンドラインオプションを指定しない時は、以前の状態で実行されます。

例: C: ¥ MK48 ¥ MK48. EXE 0020



## 2-3. コマンドラインオプションの説明

実行時のコマンドラインオプションを下記の形式で指定できます。

**Path¥MK48. . EXE Flag, Iname, PassWord, WebSite Folder Name, Disable scan bit**

**Path¥**

MK48. EXEがあるフォルダのパス名を指定します。例: C: ¥ MK48 ¥

**MK48. . EXE**

このアプリケーションの実行ファイル名です。

**Flag**

1バイトの値を16進数で指定します。ビット単位で下記の設定ができます。

Bit0

Bit1

Bit2

Bit3 成分流速2次元グラフは、平均値からの差分表示する。

Bit4

Bit5 初期化ファイルの書き込み禁止。保護状態で実行します。

Bit6

Bit7

Bit8

Bit9

Bit10

Bit11

Bit12

Bit13

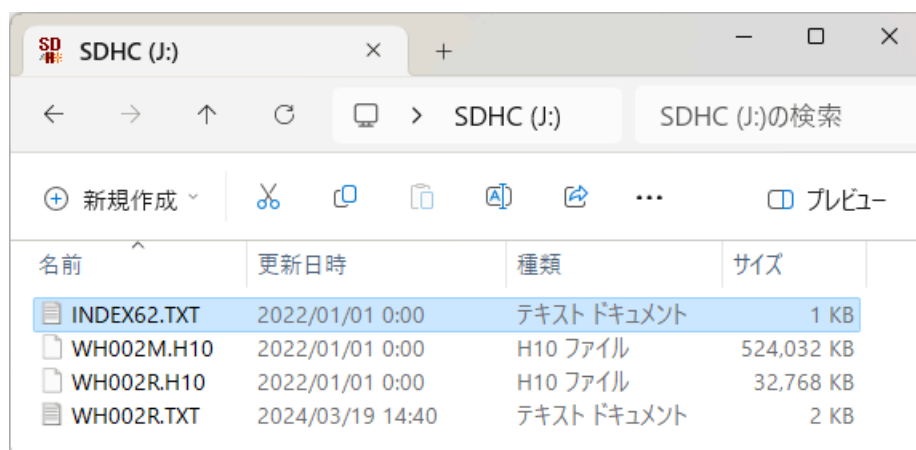
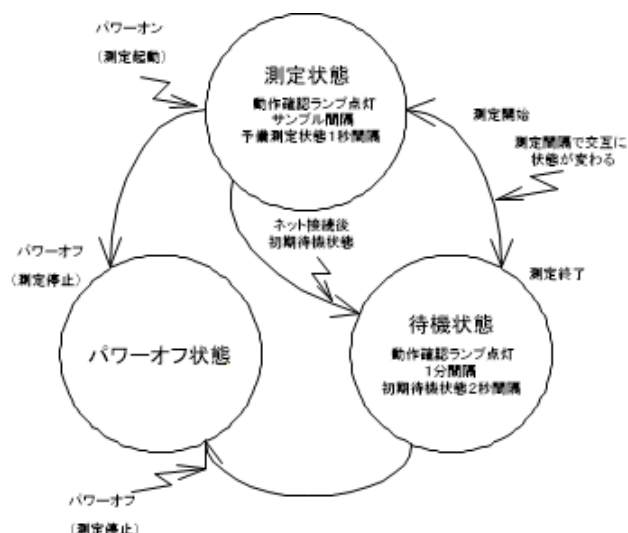
Bit14

Bit15 メンテナンスモードで起動します。

### 3-1. 本体の測定起動方法 — [関連項目 [ユビキタス機能が利用できない場合 収録データのコピーと確認](#)]

パワーオンで、本体の測定を起動します。測定条件は、SDカードの測定条件設定ファイル(index62. txt)を、Windowsの”メモ帳”で編集し、SDカードの測定条件設定ファイルを上書きすることで設定します。右図が本体の状態遷移図です。

1. 本体のパワーオフを確認して、SDカードを取り外します。パソコンのSDカードアダプターにSDカードを装着します。
2. SD カードのドライブ(下例ではJドライブ)を、”Windows エクスプローラ”で見ると、下図の4個のファイルを表示します。(下例では装置の機械番号下3桁:002)



3. 測定条件設定ファイル(index62. txt)を、Windowsの”メモ帳”で開き、測定条件を編集します。標準の測定条件設定ファイルの内容は、下記のようになっています。変更した場合はSDカードの測定条件設定ファイルを上書きしてください

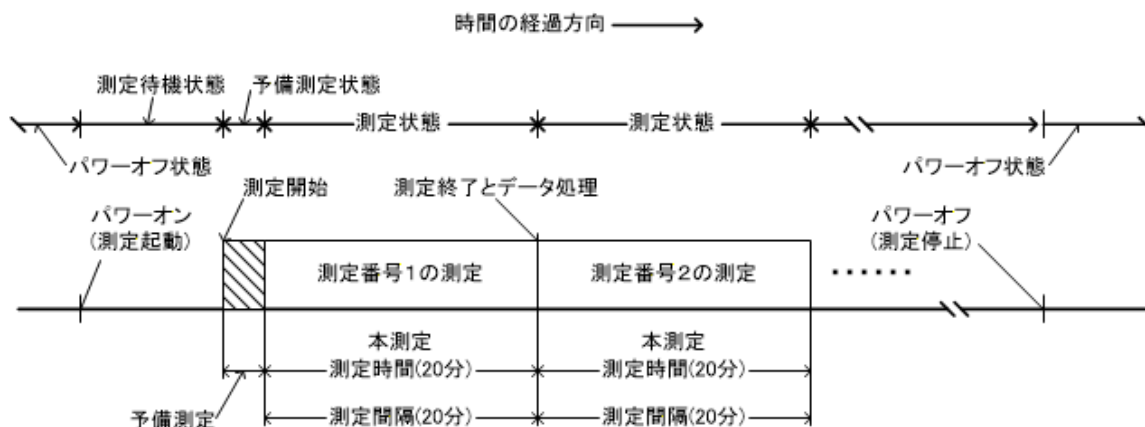
===== index62. txtの内容 =====

```

02:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); y
04:Reset HUNTER Junior(y/n); n
11:Measurement time; 20(min.)
12:Measurement interval; 20(min.)
13:Sampling interval; 0.50(sec.)
18:WH-5xx Mode(y/n); n

11:Height of water pressure gauge from sea bottom; 0.50(m)
22:Range of principal wave direction; 0 ~ 359(° )
26:Angular deviation between due north and magnetic north; 0(° )
    
```

4. SDカードを本体に戻し、パワーオンします。WAVE HUNTER24G(WH-600G シリーズ)、HUNTER JUNIOR24G (HJ-600G シリーズ)では、パワーオン後、30秒程度で、インターネットに接続して、内臓時計を合わせます。正常に時刻合わせが完了し、測定待機状態になると、本体は[動作確認ランプ]を2秒間隔でゆっくりと点滅させます。
5. 点滅は、最初の予備測定まで続き、予備測定を開始すると、1秒間隔で点滅します。1分後に予備測定を終了し、測定状態になりサンプル間隔で点滅します。
6. 初回の測定終了時刻に、処理、自動送信が終了するのを、[動作確認ランプ]で確認して、海中に投入します。次ページの図のタイムチャートを参照してください。



動作確認ランプの点滅間隔 待機状態:0.5秒/1分 予備測定状態:0.02秒/1秒 測定状態:0.02秒/サンプル間隔

注1: デフォルトの測定開始時刻は、連続測定(測定時間20分/測定間隔20分)では9分、29分、59分、間欠測定(測定時間20分/測定間隔60分)では毎時49分、その時の時刻から、一番近い時刻を設定します。

### 本体の測定起動方法(ユビキタス機能が利用できない場合)

DocomoのLTEの電波状態が悪くユビキタス機能が、正常に動作しない場合は、下記のように起動してください。

1. 本体のパワーオフを確認して、SDカードを取り外します。パソコンのSDカードアダプターにSDカードを装着します。
2. 測定条件設定ファイル(index62.txt)を、Windowsの”メモ帳”で開き、下記の15項、16項、57項を、インストールフォルダにあるファイルindex62.orgからコピーして、書き加えます。

=====  
index62.txtの内容  
=====

```
02:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); y
11:Measurement time; 20(min.)
12:Measurement interval; 20(min.)
13:Sampling interval; 0.50(sec.)
18:WH-5xx Mode(y/n); n

15:Set date/time; 2024/1/1, 0:0:0
16:Measurement start time; 0:0
57:Ubiquitous function on(y/n); n

21:Height of water pressure gauge from sea bottom; 0.50(m)
22:Range of principal wave direction; 0 ~ 359(deg.)
26:Angular deviation between due north and magnetic north; 0(deg.)
```

3. 上記の日時の指定は、パワーオン日時を覚えておけば、観測終了後に、添付のソフト(MagicProcessorK)で日時を編集できます。上記の設定では、パワーオン後、すぐに予備測定を開始します。
4. 測定条件設定ファイル(index62.txt)を上書きしてください。SDカードを、本体に装着します。
5. 本体を、パワーオンして測定起動します。[動作確認ランプ]が10秒間点灯して、消灯します。パワーオン時刻を書き留めます。
6. 上記の設定の場合は、パワーオン後、予備測定を開始し、[動作確認ランプ]消灯後、1秒間隔で点滅します。1分後に測定状態になり、[動作確認ランプ]は、サンプル間隔で点滅します。次ページのタイムチャートを参照してください。
7. 観測終了後、[9-3項. 測定日時の更新](#)、又は、[9-4項. 測定時間-測定間隔の編集](#)で、パワーオン時刻を入力して処理、日時を更新します。

注1: パワーオン後、SDカードの処理結果Rファイル(WH002R. H10)、マスターファイル(WH002M. H10)は新しいデータで上書きされます。パワーオンの前に、過去のデータファイルをバックアップしてください。

注2: パワーオン後、正常に測定起動できない場合は、[動作確認ランプ]を0.3秒間隔で点滅して、異常(SDカードが装着されていないなど)を知らせます。



11:Measurement time; 10(min.)  
12:Measurement interval; 10(min.)  
13:Sampling interval; 0.20(sec.)  
18:WH-5xx Mode(y/n); n

15:Set date/time; 2024/1/1, 0:0:0  
16:Measurement start time; 0:1  
57:Ubiquitous function on(y/n); n

21:Height of water pressure gauge from sea bottom; 1.00(m)  
22:Range of principal wave direction; 0 ~ 359(deg.)  
26:Angular deviation between due north and magnetic north; 0(deg.)

例2. サンプル間隔0.5sec、測定時間10分、測定間隔10分、水圧計の海底からの高さ3.5mで測定起動する。2026/4/20 10:55 にパワーオンし、10:59 から、1測定目の予備測定を開始する。赤字が変更部分です

02:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); y  
11:Measurement time; 10(min.)  
12:Measurement interval; 10(min.)  
13:Sampling interval; 0.50(sec.)  
18:WH-5xx Mode(y/n); n

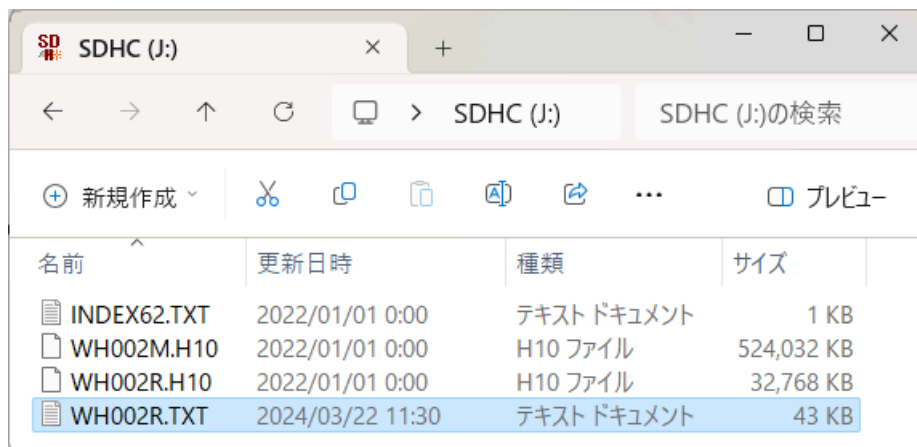
5:Set date/time; 2026/4/20, 10:55  
16:Measurement start time; 10:59  
57:Ubiquitous function on(y/n); n

21:Height of water pressure gauge from sea bottom; 3.50(m)  
22:Range of principal wave direction; 0 ~ 359(deg.)  
26:Angular deviation between due north and magnetic north; 0(deg.)

### 3-2. 収録データを素早く確認

観測終了後に、SDカードのデータを、素早く確認するには、下記の手順で行います。

1. 本体をパワーオフしてから、本体のSDカードを抜き取ります。SDカードをパソコンのSDカードアダプターに装着します。
2. "Windows エクスプローラ"で、接続したSDカードのドライブ(下図ではJドライブ)を指定して、内容を表示させます。



3. 前図のように、処理結果テキストファイル(例:wh002r. txt)を選択して、Windowsの"メモ帳"で開きます。収録された処理結果の全てを確認できます。

4. 確認が終わったら、"メモ帳"を閉じます。

### 3-3. 収録データのコピーと確認

観測終了後に、SDカードの測定データを、パソコンで確認するには、下記の手順で行います。測定した生データはマスターファイルに、本体でデータ処理された結果は、処理結果Rファイルと処理結果テキストファイルに収録されています。

#### 準備

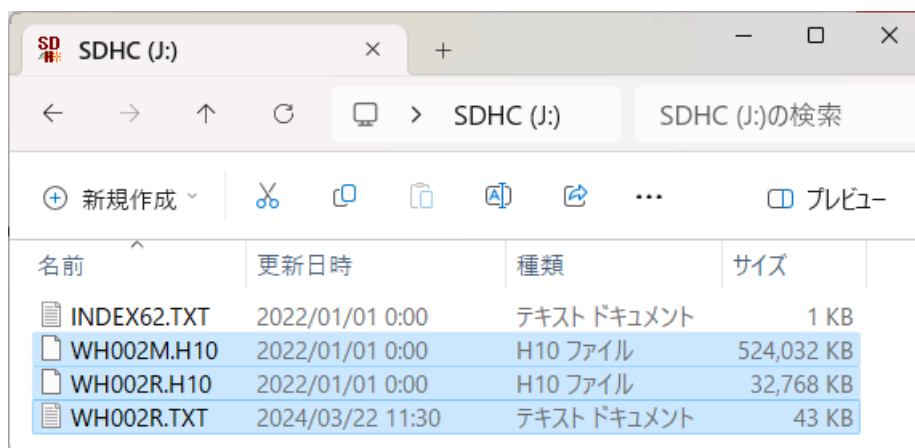
MagicProcessorKを実行します。ファイルが開いていれば、メニュー[ファイル-閉じる]で終了し、メニュー[ファイル-初期化]で、適切な初期化番号を選び、[MagicProcessorKを初期化](#)します。

カレントフォルダに、同じ機械番号のファイルがある場合は、ファイルを、別のフォルダに移動します。機械番号が002の場合は、下記のような”wh002”に関する全てのファイルを、削除、又は移動します。

wh002m. h10  
wh002l. h10  
wh002r. h10  
wh002i. h10  
wh002r. txt





### 測定データの確認

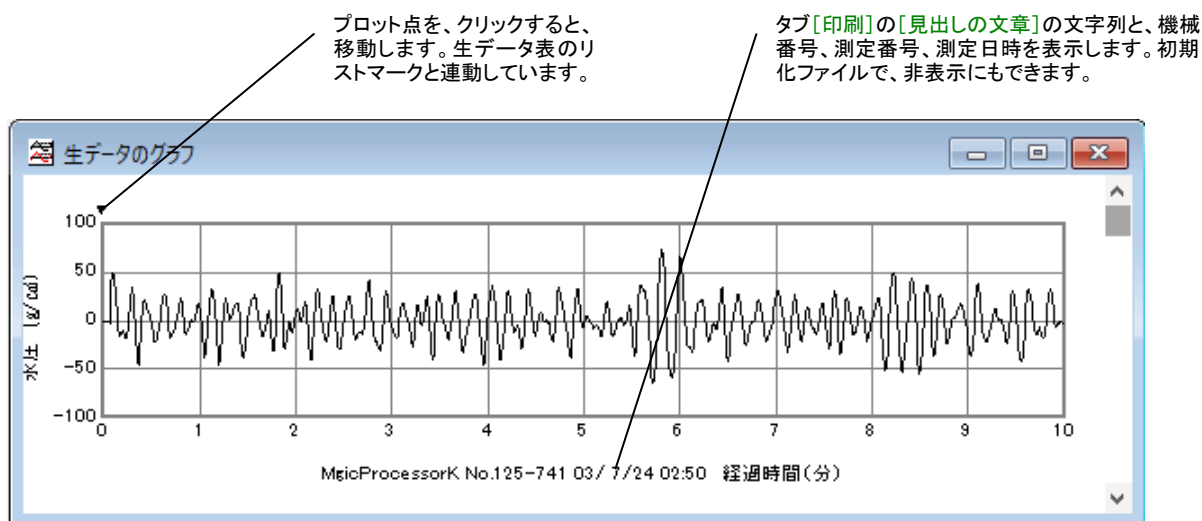
1. 本体をパワーオフしてから、本体のSDカードを抜き取ります。SDカードをパソコンのSDカードアダプターに装着します。
2. ”Windows エクスプローラ”で、接続したSDカードのドライブ(下図ではJドライブ)を指定して、ドライブの内容を表示させます。



3. 前ページの図のように、マスターファイル(例:wh0002m. h10)、処理結果Rファイル(例:wh002r. h10)、処理結果テキストファイル(例:wh002r. txt)を選択して、MagicProcessorK のインストールされているカレントフォルダにコピーします。
  4. MagicProcessorK を実行して、メニュー[ファイルを開く]で、処理結果 R ファイルを(例:wh002r. h10)を開きます。をクリックして[処理結果表]のウインドウを表示します。処理結果ファイル(whxxl. h10)が作成されますのでタイトルバーで確認します。
  5. ステータスバーの、最終収録測定番号を参考にして、処理する測定回数分を、ツールバーのリストボックスに設定します。をクリックで、連続処理を開始して、処理結果表を完成させます。メニュー[処理-中止]のクリックで中止できます。
  6. メニュー[表示-処理結果のグラフ]で、処理結果グラフを表示できます。表やグラフのフォーマットは、メニュー[処理-条件の設定]タブ[表]、[グラフ]で編集できます。測定番号を進めて表示するには、戻るには をクリックします。
- 注1. SDカードをフォーマットする場合は、パソコンのWindowsで、フォーマットを実行してください。フォーマット後、本体に装着して、本体をパワーオンします。[動作確認ランプ]が点灯して既定のファイルを作成します。その後、測定起動された場合は、パワーオフしてください。

#### 4-1. 生データグラフ - [関連項目 [生データ表](#) [生データグラフの編集](#)]

1. マスターファイル(WHxxxM. H10)を、メニュー[ファイル-開く]  で開きます。
  2. アプリケーションの終了状態によって、グラフを表示しない場合があります。メニュー[表示-生データのグラフ]  をクリックしてデータを表示させます。グラフのフォーマットは、メニュー[処理-条件の設定]  -タブ[グラフ]で編集できます。
  3. 測定番号を進めて表示するには ▶、戻るには ◀ をクリックします。連続して表示するには、 に表示する測定回数をセットして ▶、または ◀ をクリックします。連続表示を中止するときは、メニュー[処理-中止]  をクリックします。
- 注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。
- 注2. グラフの拡大や縮小は、右クリックメニューやファンクションキー[縮小-F3]、[拡大-F4]を使うと便利です。
- 注3. データの値が、一定だと、グラフは直線になり、何も描いていないように見えますので、注意して下さい。
- 注4. 1測定分の中での表示の移動は、垂直スクロールバーでできます。



## 4-2. 生データグラフの編集

1. メニュー[処理-条件の設定] タブ[グラフ-生データグラフの設定]で、編集します。

2. 表示や印刷したい生データを、[1]~[8]の 表示 をオンにして、選びます。

3. グラフが見やすいように、各チャンネルの[Y軸スケール]を決めます。データの値が、明確でない時は、[自動]をオンにして下さい。スケールを同じにして、波形を比較したい時は、[連動]もオンにして下さい。

4. [X軸スケール:測定時間(分)]を決めます。[更新]をクリックして、再表示して下さい。

注1. [長周期]のオンで、長周期フィルター後の生波形を表示します。

注2. [1]~[5]の番号のクリックで、各チャンネルの線色を指定できます。メニュー[編集-背景色]、[編集-フォント]も利用できます。

グラフの線の色を指定します。1~4クリックしてダイアログボックスを表示し、希望の色を選んで下さい。[更新]でグラフを再描画します。

表示したい項目をオンにします。指定できないチャンネルは、淡色で表示されます。

グラフを重ねて表示します。流速波形の位相や、水圧と超音波式の波形などを比較できます。生データグラフを表示しておき、処理をすると、表面波になった水圧波形を表示します。

長周期フィルター後の波形を、描きます。

グラフのY軸のスケールを指定します。ダウンロードの中から選ぶか、値をキーインして下さい。[連動]がオンの状態では、1カ所の値を変更すると、他のチャンネルも、その指定値になります。[自動]がオンの状態では、この値を指定しても、無視されます。

グラフのスケールを、各チャンネル共、同じにします。波形の大きさを比較しやすいようにします。

グラフの描画時、Y軸スケールを、測定値から計算して、自動的に決めます。[自動]オンの時は、[Y軸スケール]を設定しても、無視されます。

グラフの左端から、右端までのスケール(分)を指定します。ダウンロードの中から選ぶか、値(1~60分)をキーインして下さい。

### 4-3. 生データ表 — [関連項目 [生データグラフ](#)]

1. マスターファイル(WHxxxM. H10 xxx:機械番号下3桁)を、メニュー[ファイル-開く] で開きます。

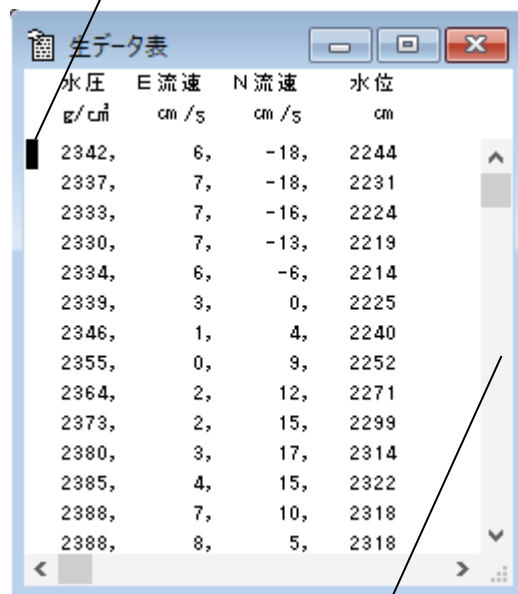
2. メニュー[表示-生データ表] のクリックで、右図の生データ表を表示できます。

3. 測定番号を進めて表示するには 、戻るには をクリックします。連続して表示するには、 に表示する測定回数をセットして 、または をクリックします。連続表示を中止するときは、 をクリックします。

注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。

注2. フォント、背景色は、メニュー[編集-フォント]と[編集-背景色]で変更ができます。

グラフマークの値を示しています。グラフのプロット点上を、クリックすると、連動して移動します。



水圧 g/cm <sup>2</sup>	E流速 cm/s	N流速 cm/s	水位 cm
2342,	6,	-18,	2244
2337,	7,	-18,	2231
2333,	7,	-16,	2224
2330,	7,	-13,	2219
2334,	6,	-6,	2214
2339,	3,	0,	2225
2346,	1,	4,	2240
2355,	0,	9,	2252
2364,	2,	12,	2271
2373,	2,	15,	2299
2380,	3,	17,	2314
2385,	4,	15,	2322
2388,	7,	10,	2318
2388,	8,	5,	2318

表をスクロールします。ただ表をスクロールさせるだけです。リストマークやカーソルは移動しません。

### 4-4. 生データの修正

生データの修正は、データファイルを、直接、書替えます。元にもどすことはできません。必ず、事前に、オリジナルファイルのコピーを作ってから、修正作業をして下さい。または、最初に[上書き保存]する代わりに、メニュー[ファイル-名前を付けて保存]で保存すれば、別のファイル名で、修正作業ができます。

#### エラー値で埋める

1. 水圧、EN流速の3チャンネルの場合、生データ表の1サンプルデータ目を、下のように、エラー値(-32768)にします。この1行をコピーして、すぐ下の行から、9回、貼り付けて、10行のエラー行を作ります。次に10行をコピーして、その下に11回貼り付けます。同様に120行をコピーして、次の行から、測定時間(分)-1回、貼り付けます。これで測定値がすべてエラー値で埋められます。

-32768, -32768, -32768

2. メニュー[ファイル-上書き保存]します。余分なデータは切り捨てられ、エラー値で埋められた、1測定分のデータを再表示します。メニュー[編集-すべてを選択]を使って、ヘッダーを含め、すべてをコピーします。Windowsのアプリケーション、“メモ帳”を実行して、貼り付けます。“メモ帳”でヘッダーの3行を削除して、適当な名前を付けて保存します。その後は、ファイルから、1測定分のエラーデータをコピーして使用できます。“メモ帳”の[すべてを選択]も利用します。

3. 必要なだけ、1測定分ずつ、エラー値を貼り付けては、メニュー[ファイル-上書き保存]します。

#### スパイクノイズを削除する

1. 生データグラフの、異常値のプロット点を、クリックします。グラフマーク が移動すると共に、生データ表のリストマーク が、その値を指します。生データ表の異常値にカーソルを移動して、値を修正します。何か所か修正点があれば、同様に値をキーインして修正します。値は同じフォーマットにして下さい。古い値は消して、表のフォーマット全体が、元どおり、ずれていないよう、整えます。

2. メニュー[ファイル-上書き保存]でファイルを修正します。生データグラフは、修正値で再表示されます。右クリックメニュー[上書き保存]でも同じです。生データグラフは、、 で再読み込みして、表示を更新してください

#### 他のデータをコピーして貼り付ける

1. コピー元のデータを表示し、メニュー[編集-すべてを選択]を使って、生データ表をコピーします。コピー先のデータを、表示します。先頭に、カーソルをあわせて、貼り付けます。

2. メニュー[ファイル-上書き保存]で、ファイルを書替えます。

## 処理後の生データファイルについて

生データ表のウィンドウを表示していると、▶で処理をした後の生データの数値表を表示します。この数値表を利用したい場合は、カレントフォルダのファイル(WH22G.TXT)を参照してください。メニュー[条件の設定]→タブ[グラフ-生データグラフの設定]で、[長周期]がチェックされていると、長周期フィルター通過後の数値が得られます

### 4-5. 成分流速2次元グラフ

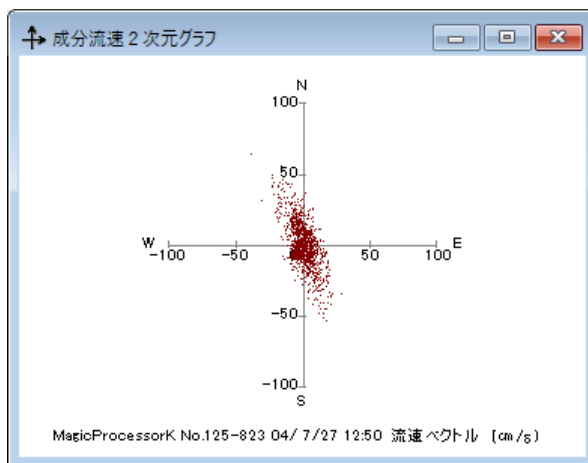
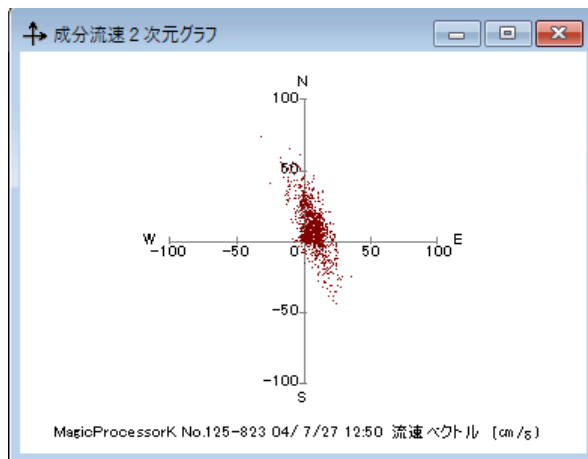
生データのチャンネル2をX(E)座標、チャンネル3をY(N)座標として、右図のように表示します。スケールは、生データグラフのスケールに準じます。プロット数は、生データグラフと同じデータ数です。流れの軌跡をイメージとしてつかめます。

1. マスターファイル(WHxxxM.H10 xxx:機械番号下3桁)を、メニュー[ファイル-開く]で開きます。
2. メニュー[表示-成分流速2次元グラフ]をクリックしてデータを表示させてください。
3. 測定番号を進めて表示するには ▶、戻るには ◀ をクリックします。連続して表示するには、 に表示する測定回数をセットして ▶、または ◀ をクリックします。連続表示を中止するときは、■をクリックします。

注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。

#### 差分表示

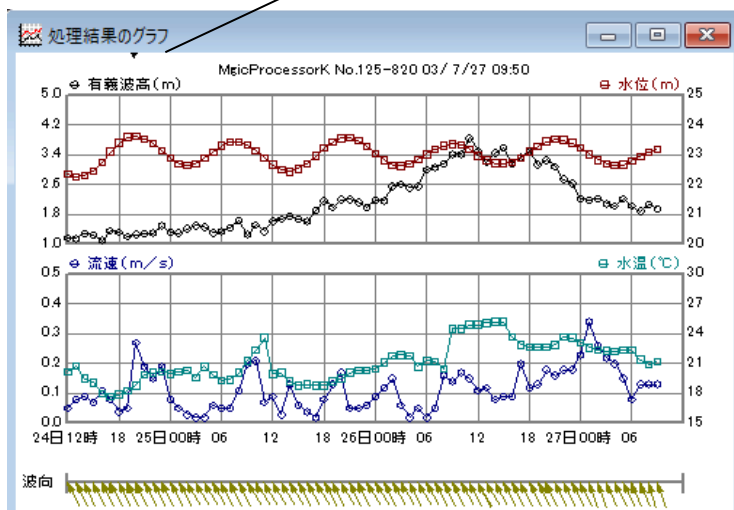
アプリケーション実行時、コマンドラインオプションの"Flag"に"0008"を指定して実行します。右図のように成分流速の平均値からの差分値をグラフにして表示します。



### 4-6. 処理結果グラフ — [関連項目 [処理結果表](#) [処理結果グラフの編集](#)]

1. メインウィンドウのタイトルバーで、処理結果Rファイル名を確認します。ファイル名が表示されていない時は、[処理結果Rファイル\(WHxxxR.H10\)を開いて](#)、処理結果ファイル(WHxxxL.H10)を作ります。以前に開いていた場合は、自動的に表示されます。
2. メニュー[表示-処理結果のグラフ]で、処理結果グラフを表示できます。グラフのフォーマットは、メニュー[処理-条件の設定]→タブ[グラフ]で編集できます。
3. 測定番号を進めて表示するには ▶、戻るには ◀ をクリックします。

プロット点を、クリックすると、移動します。処理結果表のリストマークと連動しています。



注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。

注2. グラフの拡大や縮小は、右クリックメニューやファンクションキー[縮小-F3]、[拡大-F4]を使うと便利です。

#### 4-7. 処理結果グラフの編集

1. メニュー[処理-条件の設定] タブ[グラフ-処理結果グラフの設定]で、編集します。

2. 表示や印刷したい処理結果項目を、[1]~[8]、[D1]、[D2]のダウンリスト 1 有義波高p(m) の中で、選びます。65

番目のスペースを選ぶと、そのチャンネルは、描きません。[1]チャンネルは、スペース にできません。

3. 各チャンネルのY軸スケールを決めます。グラフが見やすくなるように、[下限値]と[上限値]を決めます。結果の値が、明確でない時は、[自動]をオンにして下さい。

4. [X軸スケール(日)]と[X目盛数]を決めます。[マーク]と[数値]のオン/オフを決めます。

5. [更新]をクリックして、再表示して下さい。

注1. [1]~[8]、[D1]、[D2]のクリックで、各チャンネルの線色を指定できます。メニュー[編集-背景色]、[編集-フォント]も利用できます。

注2. グラフの線の太さ、マ  
フォーマットなどは、初期化フ

グラフのY軸スケールの上/下限値を指定します。ダウンリストの中から、クリックして選びます。値のキーインもできます。Y軸目盛の本数は5本です。上/下限値に同じ値を設定しないで下さい。

グラフの線の色を指定します。1~4, Dをクリックしてダイヤログボックスを表示し、希望の色を選んで下さい。[更新]でグラフを再描画します。

グラフに表示する各チャンネルの処理結果項目を、ダウンリストの中から選択します。

処理結果が方向を示すデータ(平均波向、主波向、流向、風向)を選びます。16方位表現の項目は、選べません。度数表示の項目を選んでください。

グラフに描く、X軸目盛の本数を指定します。ダウンリストの中から選ぶか、値をキーインします。[X軸スケール]の値を変更すると、[X目盛数]も適当と思われる値に、変更されます。

線の大きさ、スケールフ  
ァイルで変更できます。

Y軸スケールを、測定値から計算して、自動的に決めます。オンの時は、[下限値]、[上限値]を設定しても、無視されます。プロット点の、回りを囲む、[⊕] [⊖]のマークを描きます。

プロット点のすぐ側に、その点の値を表示します。

グラフの左端から、右端までの測定日数を決めます。ダウンリストの中から選ぶか、値をキーインします。ダウンリストの小数点の付いた値は、スケールを時間で、指定する時に使用します。[X軸スケール]の値を変更すると、[X目盛数]も適当と思われる値に、変更されます。

#### 4-8. 処理結果表 - [関連項目 [処理結果グラフ](#) [処理結果表の編集](#)]

1. メインウィンドウのタイトルバーで、処理結果Rファイル名を確認します。ファイル名が表示されていない時は、[処理結果Rファイル\(WHxxxR. H10\)](#)を開いて、[処理結果ファイル\(WHxxxL. H10\)](#)を作ります。以前に開いていた場合は、自動的に表示されます。
2. メニュー[表示-処理結果表] で、処理結果表を表示できます。表のフォーマットは、メニュー[処理-条件の設定] タブ[表]で編集できます。
3. 測定番号を進めて表示するには ▶、戻るには ◀ をクリックします。

注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。

注2. フォント、背景色は、メニュー[編集-フォント]と[編集-背景色]で変更ができます。

グラフマークの処理結果値を示しています。グラフと連動しています。

月日	時分	最高波高 H(m)	周期 T(s)	有義波高 H(m)	平均波向 T(s)波向	水位 (m)	流速 (m/s)	流向	水温 (°C)	測定 番号
7/26	08:50	8.10	14.1	3.03	14.3 SSE	23.62	0.16	SE	20.5	795
7/26	09:50	5.23	11.7	3.11	13.6 SSE	23.66	0.14	SSW	24.5	796
7/26	10:50	4.20	15.4	3.16	13.3 SSE	23.62	0.17	SSW	24.5	797
7/26	11:50	4.38	12.9	3.42	13.4 SSE	23.47	0.15	SW	24.9	798
7/26	12:50	4.85	13.0	3.26	13.7 SSE	23.27	0.11	SW	24.9	799
7/26	13:50	5.07	12.1	3.18	12.8 SSE	23.10	0.12	SSW	25.1	800
7/26	14:50	4.39	14.4	3.18	12.9 SSE	22.98	0.08	SSW	25.2	801
7/26	15:50	4.52	12.7	3.17	12.0 SSE	22.97	0.09	N	25.2	802
7/26	16:50	4.67	9.6	2.87	11.8 SSE	23.02	0.09	NNE	23.7	803
7/26	17:50	4.28	13.3	3.03	12.2 SSE	23.16	0.20	N	22.9	804
7/26	18:50	4.66	13.3	3.21	12.2 SSE	23.36	0.12	NNE	22.7	805
7/26	19:50	4.22	13.2	2.81	12.0 SSE	23.56	0.13	NNE	22.7	806
7/26	20:50	4.00	11.7	2.98	12.4 SSE	23.72	0.18	NNE	22.7	807
7/26	21:50	4.00	14.0	2.99	12.9 SSE	23.90	0.16	NNE	22.9	808

表をスクロールします。リストマークやカーソルは移動しません。

#### 4-9. 処理結果表の編集

1. メニュー[処理-条件の設定] タブ[表]で、編集します。
2. 右図の左のリストで追加位置(選択項目の上に追加されます。)を、クリックして決めます。表示したい処理結果項目を、右のリストの中で選びます。[追加]をクリックして項目を追加します。
3. 左のリストの一番上が印刷用紙や、画面の、左端の項目です。[空白]は2つ分のスペースを確保します。表を見やすくするために、所々にスペースを入れて下さい。[AA]時を基準に[BB]時間毎に空白行を挿入も利用して、空白行も適当に加えて下さい。
4. [削除]、[置換]、[クリア]のボタンも利用すると便利です。
5. [更新]、または[OK]をクリックして、再表示して下さい。

右のリストの中から、表示や印刷したい処理結果項目を、選びます。

ここをオフにして、[更新]すると、水圧データから計算した、処理結果(有義波高、水位など)を表示します。

処理結果項目

処理結果表のフォーマット

002 月日  
003 時分  
064  
008 最高波高p(m)  
009 最高波周期p(s)  
064  
012 有義波高p(m)  
013 有義波周期p(s)  
025 平均波向16  
064  
021 水位p(m)  
064  
032 流速(m/s)  
034 流向16  
035 水温(°C)  
064  
006 測定番号

追加  
置換  
削除  
空白  
クリア

000 測定時間/間隔  
001 年  
002 月日  
003 時分  
004 フィルタ波高1(m)  
005 フィルタ波高2(m)  
006 測定番号  
105 有義波高p(m)  
008 最高波高p(m)  
009 最高波周期p(s)  
010 1/10最大波高p(m)  
011 1/10最大波周期p(s)  
012 有義波高p(m)  
013 有義波周期p(s)  
014 平均波高p(m)  
015 平均波周期p(s)  
016 標準偏差p  
017 歪み度p  
018 尖鋭度p  
019 波数  
106 S1ピーク周期p(s)  
021 水位p(m)  
107 S有義波高(m)  
108 S1ピーク周期(s)  
024 平均波向(°)  
025 平均波向16  
026 主波向(°)  
027 主波向16  
028 フィルタ波高3(m)  
029 平均分散角(°)  
030 方向集中度  
031 波峰長パラメータ  
032 流速(m/s)  
033 流向(°)  
034 流向16  
035 水温(°C)

波高は超音波式の値を優先  
0 時を基準に、12 時間毎に空白行を挿入

更新(N) OK

表を見やすくするために、指定する間隔で、表に空白行を入れます。基準時刻の指定で、空白行の時刻を合せます。

#### 4-10. 処理結果の修正

下記の要領で処理結果を修正できます。

##### 不要な結果をエラー値で埋める

1. 処理結果表を表示し、修正したい行に、カーソルを移動します(左クリックする)。メニュー[ファイル-行のエラー値上書き保存]で修正します。表示の値は、“——”になり、処理結果グラフから、その点が消えます。右クリックメニュー[行のエラー値上書き保存]でも同じです。ファンクションキーF2を利用すると便利です。
2. エラー値で上書きした行を、元にもどしたい場合は、その行にカーソルを移動して、右クリックメニュー[再処理]でもどります。

##### 処理結果グラフの異常値を修正する

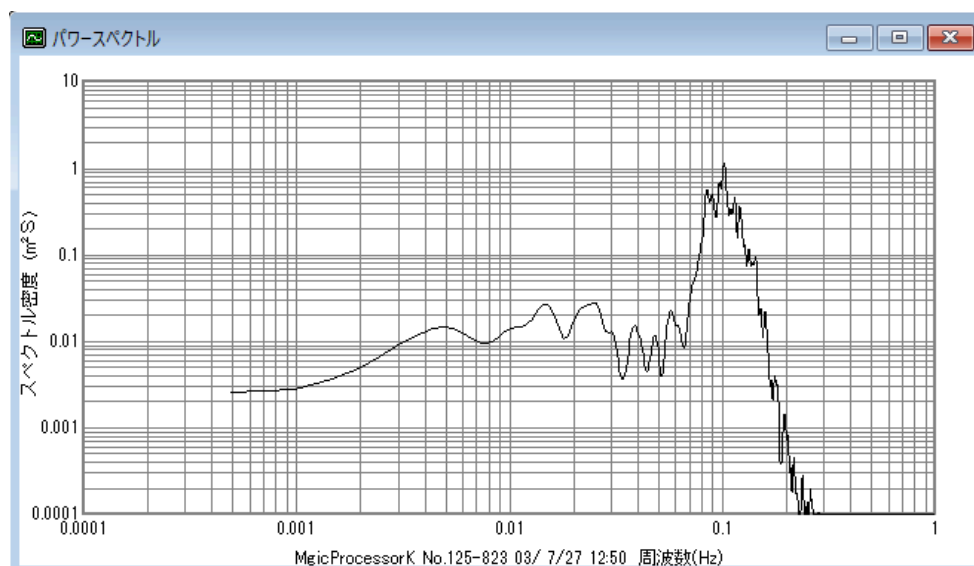
1. 処理結果グラフの、異常値のプロット点を、クリックします。グラフマーク▼が移動すると共に、処理結果表のリストマーク■が、その処理結果を指します。処理結果表の異常値にカーソルを移動して、値を修正します。何か所か修正点があれば、同様に値をキーインして修正します。値は同じフォーマットにして下さい。古い値を消して、表のフォーマット全体が、元どりにずれていないよう、整えます。メニュー[ファイル-上書き保存]で修正します。処理結果グラフは、修正値で再表示されます。右クリックメニュー[上書き保存]でも同じです。
2. 修正値を、元にもどしたい場合は、その行にカーソルを移動して、右クリックメニュー[再処理]でもどります。

##### 処理結果表のファイルについて

処理結果表を利用したい場合は、カレントフォルダのファイル(WH23G.TXT)を参照してください。

#### 4-11. パワースペクトル

1. マスターファイル(WHxxxM.H10)を、メニュー[ファイル-開く]📁で開きます。以前、開いていた場合は、自動的に表示されます。
2. メニュー[表示-パワースペクトル]📊で、パワースペクトルを表示できます。メニュー[処理-条件の設定]📄-タブ[処理条件]の[スペクトルのデータ数]、[スペクトルフィルターの回数]を適当に選んで、グラフを見やすくしてください。
3. 測定番号を進めて表示するには▶、戻るには◀をクリックします。連続して表示するには、に表示する測定回数をセットして▶、または◀をクリックします。連続表示を中止するときは、■をクリックします。



注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。


注2. 前ページの図は、水圧のパワースペクトルです。水圧はメニュー[処理→表示の実行] ▶で表示した時は、水圧のままのスペクトルです。メニュー[処理→処理の実行] ▶で処理をして表示した場合は、理論補正された水位のスペクトルとして表示します。

### スペクトル表示ファイル

パワースペクトルのグラフ表示に使用した数値データを利用したい場合は、カレントフォルダのファイル(WH24G. TXT)を参照してください。ファイルの内容は、下のようになります。

1	チャンネル
1. 95503E-03, 4. 20440E-02	周波数, スペクトル密度
3. 91007E-03, 4. 65924E-02	
5. 86510E-03, 5. 98910E-02	
7. 82014E-03, 8. 08260E-02	
9. 77517E-03, 1. 07323E-01	
1. 17302E-02, 1. 36145E-01	
1. 36852E-02, 1. 62908E-01	
1. 56403E-02, 1. 82635E-01	
1. 75953E-02, 1. 91016E-01	
.	.
.	.
.	.
.	.

## 5-1. 処理結果項目

機種や、処理条件によって、処理結果項目(64項目)は異なります。メニュー[処理条件の設定]  タブ[表]で確認してください。下表は初期化ファイルによって初期化された時の処理結果項目(0~64項目)表です。

初期化番号:00=波浪(WH-603G,HJ-603Gなど)-ファイル名:mk48i-00.org

初期化番号:01=(波浪+方向スペクトル(WH-603G HJ-603Gなど)-ファイル名:mk48i-00.org S:スペクトル

00:測定時間/間隔	01:年	02:月/日	03:時:分
04:フィルタ波高1(m)	05:フィルタ波高2(m)	06:測定番号	07:S有義波高ρ(m)
08:最高波高(水圧、m)	09:最高波周期(sec.)	10:1/10最大波高(m)	11:1/10最大波周期(sec.)
12:有義波高(水圧、m)	13:有義波周期(sec.)	14:平均波高(水圧、m)	15:平均波周期(sec.)
16:標準偏差(η rms)	17:歪み度(Skewness)	18:尖鋭度(Kurtosis)	19:波数
20:Sピーク周期ρ(sec.)	21:水深(水圧、m)	22:S有義波高(m)	23:Sピーク周期(sec.)
24:平均波向(°)	25:同左(16方位表現)	26:主波向(°)	27:同左(16方位表現)
28:フィルタ波高3(m)	29:平均分散角(°)	30:方向集中係数(γ´)	31:波峯長パラメーター(γ)
32:平均流速(m/sec)	33:平均流向(°)	34:同左(16方位表現)	35:水温(°C)
36:長周期最高波高(m)	37:長周期最高波周期(s)	38:長周期有義波高(m)	39:長周期有義波周期(s)
40:Sピーク波向(°)	41:Sピーク波向(16方位表現)	42:S主波向(°)	43:S主波向(16方位表現)
44:S平均波向(°)	45:S平均波向(16方位表現)	46:Sピーク周期(s)	109:データ異常
48:最高波高(m)	49:最高波周期(sec.)	50:1/10最大波高(m)	51:1/10最大波周期(sec.)
52:有義波高(m)	53:有義波周期(sec.)	54:平均波高(m)	55:平均波周期(sec.)
56:標準偏差(η rms)	57:歪み度(Skewness)	58:尖鋭度(Kurtosis)	59:波数
60:フィルタ波高4(m)	61:水深(m)	62:フィルタ波高5(m)	63:フィルタ波高6(m)
64:(空白)			










初期化番号:02=波浪+気象(WH-603G HJ-603Gなど)-ファイル名:mk48i-02.org

初期化番号:03=風向風速(HJ-604G)-ファイル名:mk48i-03.org 74~79:風速風向スカラー計算

00:測定時間/間隔	01:年	02:月/日	03:時:分
75:最大瞬間風向(°)	76:最大瞬間風向 16	06:測定番号	100:砂面(cm)
08:最高波高(水圧、m)	09:最高波周期(sec)	10:1/10最大波高(m)	11:1/10最大波周期(sec)
12:有義波高(水圧、m)	13:有義波周期(sec)	14:平均波高(水圧、m)	15:平均波周期(sec)
16:標準偏差(η rms)	17:歪み度(Skewness)	18:尖鋭度(Kurtosis)	19:波数
109:データ異常	21:水深(水圧、m)	22:東方成分流速(m/s)	23:北方成分流速(m/s)
24:平均波向(°)	25:同左(16方位表現)	26:主波向(°)	27:同左(16方位表現)
74:最大瞬間風速(m/s)	29:平均分散角(°)	30:方向集中係数(γ´)	31:波峯長パラメーター(γ)
32:平均流速(m/sec)	33:平均流向(°)	34:同左(16方位表現)	35:水温(°C)
36:長周期最高波高 L(m)	37:長周期最高波周期 L(s)	38:長周期有義波高 L(m)	39:長周期有義波周期 L(s)
43:気圧(hPa)	41:平均風向(°)	42:平均風向 16	40:平均風速(m/s)
44:気温(°C)	45:最大瞬間風速(m/s)	46:最大瞬間風向(°)	47:最大瞬間風向 16
48:最高波高(m)	49:最高波周期(sec)	50:1/10最大波高(m)	51:1/10最大波周期(sec)
52:有義波高(m)	53:有義波周期(sec)	54:平均波高(m)	55:平均波周期(sec)
56:標準偏差(η rms)	57:歪み度(Skewness)	58:尖鋭度(Kurtosis)	59:波数
77:平均風速(m/s)	61:水深(m)	78:平均風向(°)	79:平均風向 16
64:(空白)			

## 6-1. 印刷

### A. まず表示します。

1. マスターファイル (WHxxxM. H10) を、メニュー [ファイルー開く]  で開きます。
2. 印刷する表やグラフを、、、、、、、 のクリックで選択します。メニュー [処理ー条件の設定]  タブ [表]、一タブ [グラフ] で編集して、見やすいフォーマットにしてください。

### B. そして印刷します。

3. メニュー [ファイルー印刷] で、[印刷の範囲]、[印刷部数]、[プリンタ] を決めて、[OK] をクリックして印刷します。印刷量が多い場合や、グラフが複雑な時は、時間がかかります。全て印刷する時は、[印刷の範囲] で [すべて] を選びます。
4. 表もグラフも同じように印刷できます。下記の点に注意してください。

#### 処理結果表では

- 注1. 用紙の先頭にくる、測定日時の行にカーソルを合せ、メニュー [ファイルー印刷] で、テスト印刷をして確認して下さい。印刷文字が、用紙からはみ出る場合は、フォントサイズ や、[1ページ当たりの測定回数]などで、調整して下さい。
- 注2. 表を部分的に印刷する時は、印刷したい範囲を、マウスでドラッグして、反転表示して選択します。
- 注3. 1ページだけ、印刷する時は、用紙の先頭にしたい、測定日時の行にカーソルを合せます。

#### 処理結果グラフでは

- 注1. グラフを選択した場合は、全体が印刷されます。
- 注2. バランスが、悪い時は、フォントの大きさを調整して下さい。グラフが複雑な時は、時間がかかります。線の太さや、マークの大きさは、初期化ファイルで調整できます。


#### 生データ表では

- 注1. 印刷したい範囲を、マウスでドラッグして、反転表示して選択します。カーソルを合せただけでは、何も印刷しません。生データを1測定分、すべて印刷するとページ数が、多量になります。注意して下さい。

#### 生データグラフでは

- 注1. データの値が、一定だと、グラフは直線になり、何も描いていないように見えますので、注意して下さい。

## 6-2. プリンターの設定



Windowsの標準プリンターを示しています。[詳細設定]の[用紙]は、[縦]を選択して下さい。

表の印刷の時に有効です。フォーカスされているウィンドウの表が、すべて印刷されます。生データのウィンドウでは、注意して下さい。



表の選択した部分だけを印刷します。処理結果表の場合、何も選択されていない時は、カーソル行から、1ページ分を印刷します。

印刷

## 7-1. メニュー[ファイル] – [関連項目 [編集](#) [表示](#) [処理](#) [ウィンドウ](#) [ヘルプ](#) [ポップアップメニュー](#)]

### ファイル 開く(O) Ctrl+O

標準ファイル名の場合、マスターファイルを指定すれば、処理結果ファイルも自動的に開きます。任意の名前のファイルも開けます。ウィンドウのタイトルバーに、使用中のファイル名を示します。処理結果 R ファイル(WHxxxR. H10)を開くこともできます。

注1. MagicProcessorKの前の終了状態によって、表やグラフを表示しない場合があります。  や  をクリックしてデータを表示させてください。

### ファイル 閉じる(C)

MagicProcessorKの状態を保存して、全てのファイルを閉じ、表示をクリアします。

### ファイル ファイルの更新(N) F5

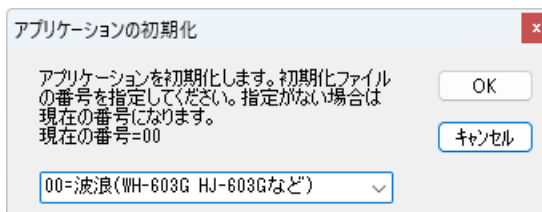
開いているマスターファイルの更新して、最新の測定番号などを使用できるようにします。

### ファイル 初期化(I) F9

カレントフォルダに、いくつかのオリジナル初期化ファイル”MK48i-nn. org”があります。この初期化ファイルに、アプリケーションを初期化するための設定値が保存されています。

1. 右図の問い合わせがあります。
2. クリックで、ダウリストを表示させ、その中から対象の番号を選んで[OK]をクリックします。
3. オリジナルの初期化ファイルが、カレントの初期化ファイル”MK48i. ini”にコピーされて、アプリケーションが再実行されます。

注:完全にアプリケーションを初期化する場合は、メニュー[ファイル-閉じる]でファイルを閉じてから、メニュー[ファイル-アプリケーションの初期化]を実行します。



### ファイル 上書き保存(S) 右クリックメニュー Ctrl+S

修正した生データ表の値で、マスターファイルを上書きします。生データの修正単位は、1測定分です。次の測定データを表示する前に、保存して下さい。修正が処理結果表の時は、処理結果ファイルを、表の値で、上書きします。処理結果ファイルの修正単位は、ファイル単位です。いつ保存してもかまいませんが、修正したら細めに保存するように、心がけて下さい。

### ファイル 行のエラー値上書き保存(E) 右クリックメニュー F2

処理結果ファイルの不要な部分(陸上のデータなど、表やグラフを見難くするデータを、1測定分、エラー値で上書きします。この機能を利用して、表やグラフが、見やすくなるように整理します。

### ファイル 名前を付けて保存(A)

修正した数値表を、別のファイルネームで、保存します。生データの修正単位は、1測定分です。[上書き保存]を、1度、実行すると、マスターファイルの内容は書き換わってしまいます。オリジナルファイルを修正する前に、この[名前を付けて保存]でオリジナルファイルのコピー(内容が同じで、別名のファイル)を作成してから、修正する方法を、おすすめします。処理結果ファイルの場合は、マスターファイルさえあれば、何度でも、再計算して、修正することができます。

### ファイル バックアップ(B)

カレントフォルダに“WHxxx”フォルダ、その下に“Byyyy-mmdd-hhmmss”フォルダを作成して、“WHxxx-. H10”関連データファイルを全てコピーします。

### ファイル ファイルムーブ(V)

カレントフォルダに“WHxxx”フォルダ、その下に“Byyyy-mmdd-hhmmss”フォルダを作成して、“WHxxx-. H10”関連データファイルを移動します。

### ファイル 印刷(P)

フォーカスされているウィンドウの、表やグラフを印刷します。

### ファイル 送信(T)

任意(手動)に処理結果をサーバーにアップロード(送信)したいときに使用します。自動的にアップロードすることもできます。

### ファイル [測定時間-測定間隔の編集\(G\)](#)

測定データが、連続測定データの場合、測定開始日時、測定終了日時、測定時間、測定間隔を指定して、希望のマスターファイルを作成できます。

#### ファイル 測定日時の更新(D)

測定データの測定開始日時を、指定した測定開始日時に変更します。

#### ファイル テキストデータファイルに変換(F)

マスターファイルを、テキストデータファイルへ変換します。

#### ファイル ファイルサイズの変更(Z)

SDカードからコピーしたマスターファイルや、処理結果Rファイルの不要な部分を削除して、ファイルサイズを小さくし、扱いやすくします。

#### MagicProcessorの終了(X)

このアプリケーションを終了します。

## 7-2. メニュー[編集]

### 編集 拡大(Z) 右クリックメニュー F4

X軸: グラフマーク▼を基準にして、X軸を拡大して再描画します。

Y軸: グラフのY軸方向を拡大して、再描画します。目盛の値は小さくなります。

### 編集 縮小(U) 右クリックメニュー F3

X軸: グラフマーク▼を基準にして、X軸を縮小して再描画します。

Y軸: グラフのY軸方向を縮小して、再描画します。目盛の値は、大きくなります。

### 編集 切り取り(T) Ctrl+X

選択部分を、Windowsのクリップボードに切り取ります。生データ表の修正時に利用します。グラフでは利用できません。

### 編集 コピー(C) 右クリックメニュー Ctrl+C

グラフのウィンドウを選択している時は、ウィンドウ全体を、Windowsのクリップボードにコピーします。表の場合は、選択部分を、クリップボードにコピーします。メニュー[編集-すべてを選択]で、表全体を選択できます(見出しの部分は除きます)。修正時に利用します。WordやExcelに、表やグラフを貼り付ける時も、利用します。

### 編集 貼り付け(P) Ctrl+V

クリップボードの内容を、表に貼り付けます。修正時に利用します。グラフに貼り付けることはできません。

### 編集 フォント(F)

表やグラフのフォントを指定します。表のフォントは、下の制限があります。グラフのフォントは、指定どうりに表示します。

注 1. 「MSP ゴシック」など、Pの付くタイプのプロポーショナルフォントは使用しないでください。

注 2. プロポーショナルフォントでなくても、ツルタイプフォント(「MS 明朝」など)では、文字の大きさによって、表の並びがずれることがあります。

注 3. 表の数値の部分は、フォント(文字)の色を指定できません。見出しの部分は、色を指定できます。

### 編集 背景色(B)

表やグラフの背景色を指定します。表の背景色は、システムによって、基本16色とWindowsのシステムカラーしか利用できない場合があります。その他の中間色は、それに近い、基本16色になります。グラフの背景色は、指定どうりに表示します。

### 編集 すべてを選択(A)

見出しの部分を除き、ウィンドウ内のすべてのテキストを、選択状態にします。表の修正時に利用します。

## 7-3. メニュー[表示]

### 表示 再表示(E) 右クリックメニュー

測定番号を、処理結果表のカーソルやスクロールバーで移動した時、処理結果グラフを連動して、表示する時に使います。

移動点(グラフマーク▼で確認)が表示内であれば再表示しません。また、データ番号を生データ表のカーソルや、生データグラフのスクロールバーで移動した時、生データグラフを連動して、表示する時に使います。メニュー[処理-表示の実行]のように、測定番号は+1されません。

### 表示 処理結果表(R)

処理結果の数値表を表示します。

**表示 処理結果のグラフ(S)** 

処理結果グラフを表示します。

**表示 生データ表(S)** 

生データの数値表を表示します。

**表示 生データのグラフ(G)** 

生データグラフを表示します。

**表示 成分流速の2次元グラフ(X)** 

成分流速の2次元グラフを表示します。

**表示 パワースペクトル(P)** 

パワースペクトルグラフを表示します。

**表示 ツールバー(L)**

ツールバーの表示をオン/オフします。

**表示 ステータスバー(B)**



ステータスバーの表示をオン/オフします。

**表示 スクロールバー(D)**



スクロールバーの表示をオン/オフします。スクロールバーで測定番号を指定できます。

## 7-4. メニュー[処理]



**処理 表示の実行(E)** 

次の測定番号のデータを、表示します。連続表示するには、ツールバーのリストボックス  のダウリストで 値を選ぶか、キーインして、 をクリックします。指定した測定回数分を、連続表示します。途中で中止したい時は、 をクリックします。

**処理 表示の逆実行(B)** 

1つ手前の測定番号のデータを、表示します。逆連続表示するには、ツールバーのリストボックスのダウリストで値を選ぶか、キーインして、 をクリックします。指定した測定回数分を、逆方向に連続表示します。途中で中止したい時は、 をクリックします。

**処理 処理の実行(F)** 

測定回数をツールバーのリストボックスのダウリストで値を選ぶか、キーインして指定します。 をクリックして連続処理できます。途中で中止したい時は、 をクリックします。

**処理 中止(C)** 

作業を、途中で中止します。

**処理 条件の設定(J)** 

## 7-5. メニュー[ウィンドウ]

**ウィンドウ 重ねて表示(C)** 

ウィンドウを、重ねて表示します。

**ウィンドウ 並べて表示(T)** 

ウィンドウを、横に並べて表示します。

**ウィンドウ 縦に並べて表示(&V)** 

ウィンドウを、縦に並べて表示します。

**ウィンドウ 保護状態(B)**

MagicProcessorKの状態(設定値や、ウィンドウの位置など)が、保護されているときにチェックが付きます。コマンドラインで指定して実行しない限り、通常は、チェックされてない状態です。MagicProcessorKの状態を変更し、クリックすると、その時の状態を、初期化ファイル(MK48i. ini)に保存します。チェックされてない場合は、メニュー[**MagicProcessorK**

の終了]、[閉じる]などの操作時にも状態を保存します。MagicProcessorKを再実行すれば、終了した状態を復元できます。チェックされている場合は、チェックした時の状態を復元して再実行します。

## 7-6. メニュー[ヘルプ]

### ヘルプ トピックの検索(H)

このアプリケーションの、ヘルプを表示します。

### ヘルプ バージョン情報(V)

このアプリケーションの、バージョン情報を表示します。

## 7-7. ポップアップメニュー(右クリックメニュー)

### 再表示(E)

表のカーソルやスクロールバーを移動した時、グラフを連動して、表示する時に使います。移動点(グラフマーク▼で確認)が表示内であれば再表示しません。

### 拡大(Z)

X軸: グラフマーク▼を基準にして、X軸を拡大して再描画します。

Y軸: グラフのY軸方向を拡大して、再描画します。目盛の値は小さくなります。

### 縮小(&U)

X軸: グラフマーク▼を基準にして、X軸を縮小して再描画します。

Y軸: グラフのY軸方向を縮小して、再描画します。目盛の値は、大きくなります。

### 再処理(F)

指定されている測定番号だけを処理します。処理結果グラフに、その結果を表示していれば、グラフの位置は変わりません。結果の修正値を元にもどす時、使用できます。

### 条件の設定(J)

#### 上書き保存(S) Ctrl+S

修正した生データ表の値で、マスターファイルを上書きします。生データの修正単位は、1測定分です。次の測定データを表示する前に、保存して下さい。修正が処理結果表の時は、処理結果ファイルを、表の値で、上書きします。処理結果ファイルの修正単位は、ファイル単位です。

#### 行のエラー値上書き保存(E) F2

処理結果ファイルの不要な部分(陸上のデータなど、表やグラフを見難くするデータを、1測定分、エラー値で上書きします。この機能を利用して、表やグラフが、見やすくなるように整理します。

#### コピー(C) Ctrl+C

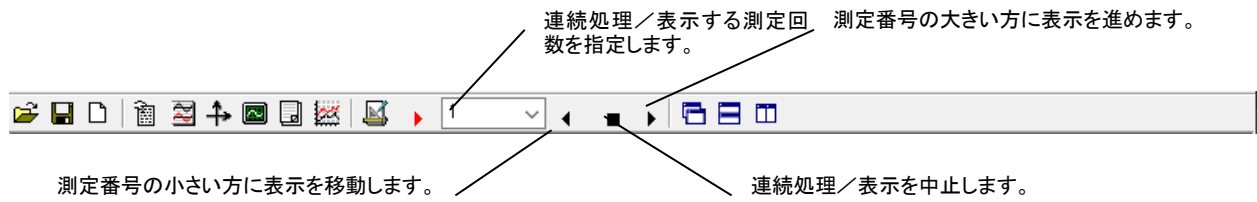
グラフのウィンドウを選択している時は、ウィンドウ全体を、クリップボードにコピーします。表の場合は、選択部分を、クリップボードにコピーします。メニュー[編集-すべてを選択]で、表全体を選択できます(見出しの部分は除きます)。修正時に利用します。WordやExcelに、表やグラフを貼り付ける時も、利用します。

### ヘルプ(H)

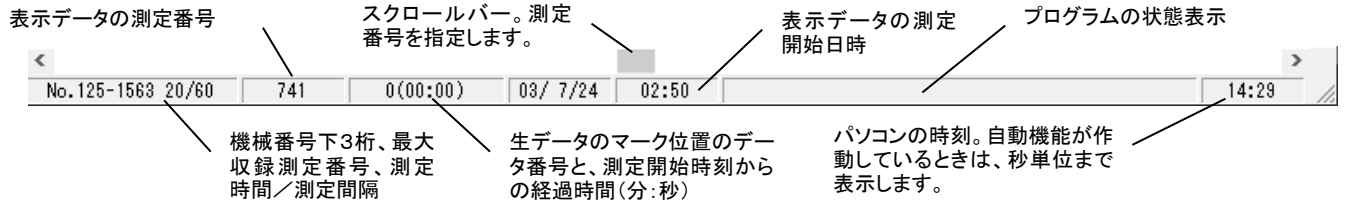
このアプリケーションの、ヘルプを表示します。

## 7-8. ツールバー

各ボタンの説明は、6-1～6-7項のメニューの説明を参照してください。



## 7-9. ステータスバー



## 8-1. ファイル

ファイルは、MK48. EXEのある、カレントフォルダに、置いて下さい。MagicProcessorKが、自動的に作成するファイルネームは、下記の要領で名付けられます。ファイルの詳細は、“データ構造説明書”を参照してください。

ファイル名の例:WH101x. H10

部分	説明
WH	”WH”になります (SM-601G,HJ-603G は”SM”)
101	本体の機械番号下3桁
x	M: マスターファイル(Mファイル) L: 処理結果ファイル(Lファイル) R: 処理結果 R ファイル(Rファイル) A: テキストデータファイル
. H10	”. H10”になります (処理結果テキストファイル:”. TXT”)

### マスターファイル(WHxxxM. H10 バイナリーファイル)

バイナリーファイルです。生データを収録しています (Mファイルとも呼びます)。測定番号1から順にデータが入り、SDカードに収録されています。

### 処理結果ファイル(WHxxxL. H10 テキストファイル)

MagicProcessorKが、計算した結果を、収録した、テキストファイルです (Lファイルとも呼びます)。Windows の”メモ帳”や、表計算ソフトで、そのまま読み込めます。下の書式になります。各項目番号に、処理結果が入ります。各項目は、5桁の数値”#####”とコンマ”,”からなります。8項目毎にコンマの次にスペース” ”が入り、64項目まで繰り返します。最後にキャレッジリターン、ラインフィードが付きます。1測定分は392文字の固定長です。

#### 処理結果の書式(392文字/1測定結果)

```
項目番号 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 .....63 64
書 式 #####, #####, #####, #####, #####, #####, #####, #####, #####, #####, .....#####, #####CRLF
```

### 処理結果Rファイル(WHxxxR. H10 バイナリーファイル)

処理結果Rファイルは、120バイトのヘッダー(バイナリー)と、392バイトの処理結果テキストが、収録されています (Rファイルとも呼びます)。そのままマスターファイルと同様に扱えます。SDカードにあります。

### 処理結果テキストファイル(WHxxxR. TXT テキストファイル)

本体が、計算した結果を、収録したテキストファイルです。内容は、Lファイルと同じですが、各処理結果に加えて、最初の2行に処理結果項目名称と処理結果数値の単位が付加されています。SDカードにあります。

### テキストデータファイル(WHxxxnnnnnA. H10 テキストファイル)

マスターファイルは、メニュー[ファイル→テキストデータファイルに変換]で変換できます。下記は、変換したテキストデータファイルのフォーマットです。10分/60分(0.5秒サンプル)で、4チャンネルのデータを、収録したファイルは、下のような順序でデータが入っています。

#### テキストファイルの内容

```
17185, 0, 0, 226, 1520, 125
02, 35, 4, 1, 10, 60
1, 63, 50, 16, 7, 1
2488, -3, 11, 2374
2492, -3, 13, 2377
```

#### テキストファイルの項目の説明

```
測定要素、 未定、 未定、 平均方位、平均水温、機械番号
年、 電圧、 チャンル数、 測定番号、測定時間、測定間隔
測定パラメータ1、測定パラメータ2、分、 時、 日、 月
水圧(1)、 E流速(1)、 N流速(1)、 水位(1)
水圧(2)、 E流速(2)、 N流速(2)、 水位(2)
```

2495,	-2,	15,	2392	水圧 (3) 、	E 流速 (3)、	N 流速 (3)、	水位 (3)
...							
...							
...							
2492,	1,	9,	2394	水圧 (1199) 、	E 流速 (1199)、	N 流速 (1199)、	水位 (1199)
2491,	3,	8,	2394	水圧 (1200) 、	E 流速 (1200)、	N 流速 (1200)、	水位 (1200)
17185,	0,	0,	221, 1523, 125				
02,	35,	4,	2, 10, 60				
1,	63,	50,	17, 7, 1				
2459,	3,	5,	2353				
2459,	2,	4,	2356				

### その他の関係ファイル

#### 初期化ファイル (WH48i.ini)

オリジナル初期化ファイルをコピーしたファイルで、アプリケーションを実行する時に、読み込まれ、アプリケーションの終了時に、その時の状態を保存するため上書きされます。

#### 機種別オリジナル初期化ファイル (WH48i-*nn*.org)

カレントフォルダに、いくつかのオリジナル初期化ファイル”MK48i-*nn*.org”があります。あらかじめ機種に合わせた初期値が設定されています。内容は書き替えしないで下さい。

#### 測定要素項目ファイル (WH48f.org)

測定され、収録されているデータの要素 (水圧、流速、水位など) の名称や、単位、表示のフォーマットなどを指定しています。

#### 処理結果項目ファイル (WH48g.org)

処理結果項目の一覧ファイルで、項目名、表示フォーマット、グラフスケールの初期値、係数などを指定しています。

#### グラフファイル1 (whnng.bmp)

アプリケーションが描画したグラフの画像ファイル (拡張子: BMP) です。

#### 数値表ファイル (whnng.txt)

アプリケーションが作成した数値表のテキストファイルです。Webページにも使用されます。

#### 測定条件設定ファイル (index62.txt)

本体の測定条件を設定するためファイルで、本体のSDカードに置かれています。本体は、パワーオン時にSDカードのindex62.txtを読み込み、その設定条件に従い、自身の動作を決定します。

## 8-2. 処理結果Rファイル(Rファイル)を開く - [関連項目 [処理結果グラフ](#) [処理結果表の編集](#)]

### 1. SDカードからコピーした処理結果Rファイル(WHxxxR.H10)を、メニュー[ファイル-開く]で開きます。

メニュー[ファイル-開く]で開きます。

### 2. メインウィンドウのタイトルバーで、ファイル名を確認します。▶をクリックして[処理結果表]のウィンドウを表示します。



処理結果ファイル(WHxxxL.H10)が作成されますのでタイトルバーで確認します。

### 3. ステータスバーの、最終収録測定番号を

参考にして、処理する測定回数分を、ツールバーのリストボックス [ ] に設定し



月日	時分	最高波P H(m) T(s)	有義波P H(m) T(s)	平均 波向	水位P (m)	流速流向 (m/s)	水温 (°C)	測定 番号
7/26	08:50	5.10 14.1	3.03 14.3	SSE	23.62	0.16 SE	20.5	795
7/26	09:50	5.23 11.7	3.11 13.6	SSE	23.66	0.14 SSW	24.5	796
7/26	10:50	4.20 15.4	3.16 13.3	SSE	23.62	0.17 SSW	24.5	797
7/26	11:50	4.38 12.9	3.42 13.4	SSE	23.47	0.15 SW	24.9	798
7/26	12:50	4.85 13.0	3.26 13.7	SSE	23.27	0.11 SW	24.9	799
7/26	13:50	5.07 12.1	3.18 12.8	SSE	23.10	0.12 SSW	25.1	800
7/26	14:50	4.39 14.4	3.18 12.9	SSE	22.98	0.08 SSW	25.2	801
7/26	15:50	4.52 12.7	3.17 12.0	SSE	22.97	0.09 N	25.2	802
7/26	16:50	4.67 9.6	2.87 11.8	SSE	23.02	0.09 NNE	23.7	803
7/26	17:50	4.28 13.3	3.03 12.2	SSE	23.16	0.20 N	22.9	804
7/26	18:50	4.66 13.3	3.21 12.2	SSE	23.36	0.12 NNE	22.7	805
7/26	19:50	4.22 13.2	2.81 12.0	SSE	23.56	0.13 NNE	22.7	806
7/26	20:50	4.00 11.7	2.98 12.4	SSE	23.72	0.18 NNE	22.7	807
7/26	21:50	4.08 14.2	3.03 13.3	SSE	23.00	0.16 NNE	22.9	808

ます。▶のクリックで、連続処理を開始して、処理結果表を完成させます。[処理一中止]■のクリックで中止できます。

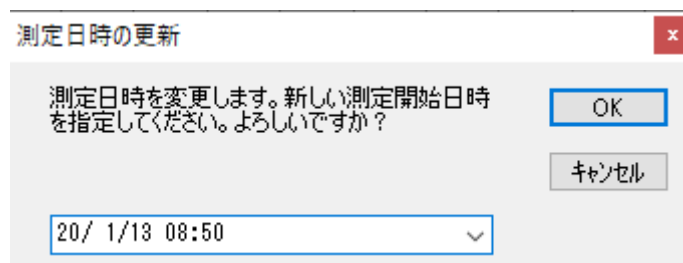
4. メニュー[表示一処理結果のグラフ]  で、処理結果グラフを表示できます。表やグラフのフォーマットは、メニュー[処理一条件の設定]  タブ[表]、[グラフ]で編集できます。測定番号を進めて表示するには、戻るにはをクリックします。

注1. 大きく測定番号を移動するときは、メインウィンドウ下の[スクロールバー]を使用します。

### 8-3. 測定日時の更新

1. MagicProcessorK を実行して、メニュー[ファイル一開く]  で、マスターファイル (WHxxxM. H10)、又は処理結果Rファイル (WHxxxR. H10)を開き、[表示一処理結果表]  を表示します。
2. メニュー[ファイル一測定日時の更新]をクリックします。
3. 下図の問い合わせがありますので、新しい測定開始日時を指定します。表示通りに、桁をずらさないで、日時をキーインします。
4. [OK]をクリックします。ステータスバーに”測定日時の更新中”を表示します。”測定日時の更新完了”の表示で終了です。

注: マスターファイル (WHxxxM. H10)、又は処理結果Rファイル (WHxxxR. H10)と処理結果ファイル (WHxxxL. H10)の測定日時が変更されます。




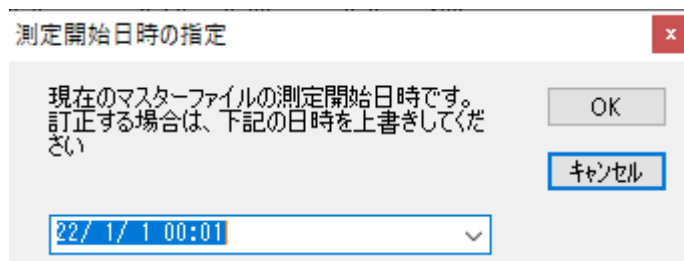
### 8-4. 測定時間一測定間隔の編集 — [関連項目 測定タイムチャート]

WH-600シリーズでは、測定時間、測定間隔、測定開始時刻を設定しないで、パワーオンだけで、測定起動できます。その場合、この機能で観測終了後に、測定時間、測定間隔、測定開始時刻を設定して、マスターファイル (WHxxxM. H10)を編集することができます。

注1: この機能は、原データが、連続測定で収録されている場合だけ有効です。

注2: この機能は、マスターファイルを編集するだけで、編集したマスターファイルを再処理する機能はありません。処理機能のあるMagicProcessorKで、再処理を実行してください。

1. MagicProcessorK を実行して、メニュー[ファイル一開く]  で、マスターファイルを開き、表示します。
2. メニュー[ファイル一測定時間一測定間隔の編集]をクリックします。
3. SDカードに収録されていたマスターファイルの最初の測定 (測定番号1)の測定開始日時を、下図のように表示します。日時が、“22/ 1/ 1 00:00“のように、日時が設定されていない場合は、本来の測定開始日時で、下図の日時を上書きして訂正し、[OK]をクリックします。



4. 次に下図の問い合わせがありますので、新しく作成するマスターファイルの最初の測定 (測定番号1)の測定開始日時を、上書きして指定し、[OK]をクリックします。マスターファイルの最後の測定の日時を指定したい場合は、[終了日時]にチェックを入れてから、[OK]をクリックします。

作成するマスターファイルの測定開始日時の指定 ×

これから作成するマスターファイルの測定開始日時を指定して下さい。[終了日時]のチェックで、測定終了日時も指定できます

OK  
キャンセル

22/12/10 10:50  終了日時

5. 同様に、新しく作成するマスターファイルの最後の測定の日時を指定し、[OK]をクリックします。[終了日時]にチェックを入れなかった場合は、この項はスキップされます。

作成するマスターファイルの測定終了日時の指定 ×

これから作成するマスターファイルの測定終了日時を指定して下さい

OK  
キャンセル

22/12/12 10:30

6. 最後に、編集後のマスターファイルのデータの測定時間と測定間隔を指定して、[OK]をクリックします。

作成するマスターファイルの測定時間と測定間隔の指定 ×

現在の測定時間/測定間隔です。編集後の測定時間/測定間隔を指定して下さい

OK  
キャンセル


10/10

7. 編集内容の確認が下図のようにありますので、[OK]をクリックして、編集を実行します。変更する場合は[キャンセル]して、2項からやり直してください。

測定時間と測定間隔編集の確認 ×


測定時間=10(分)、測定間隔=10(分)、測定開始時刻=22/12/10 10:50で、マスターファイル="WH014-221210-1050-1010mh10"を作成します。完了後に、作成されたマスターファイルを開いて処理して下さい。よろしいですか？

OK  
キャンセル

8. 編集実行中は、ステータスバーに"マスターファイル編集中"を表示します。"マスターファイル編集中完了"の表示で終了です。新しいマスターファイルを、メニュー[ファイルー開く]  開いて、処理してください。

## 8-5. テキストデータファイルに変換

マスターファイル(バイナリーファイル)を、テキストデータファイルへ変換します。下記の手順で実行してください。

- 変換するマスターファイル(WHxxxM. H10)を、メニュー[ファイルー開く]  で開きます。
- メニュー[ファイルーテキストデータファイルに変換]をクリックして、下図のウィンドウ[テキストデータファイルに変換]で、開始測定番号と終了測定番号を指定し、[OK]をクリックします。デフォルトは、00001~10000となっています。変換中は、"変換中"と"測定番号"を表示し、終了すると"変換終了"を表示します。

テキストデータファイルに変換 ×

wh125mh10 を変換します。開始、終了測定番号を、必ず5桁で指定します。  
例: 00100,00999  
旧タイプは、1ファイル分の測定回数を指定します。例: 00001,00010

OK  
キャンセル

00001, 10000  旧タイプ

3. カレントフォルダに日別のフォルダ(WHxxxxyyyymmdd, xxx=機械番号, yyyy=年, mm=月, dd=日)を作成し、1測定分ずつのテキストデータファイル(WHxxxxnnnnnA. H10, xxx=機械番号, nnnnn=測定番号)を作成します。メニュー[処理-中止(F7)]のクリックで変換を中止できます。

4. [旧タイプ]にチェックを入れる変換では、開始測定番号と終了測定番号を指定する代わりに、1ファイル分の測定回数を指定します。00001, 65530とした場合は、全てのデータを一つのテキストファイルに変換します。

注1: 開始、終了測定番号の指定は、必ず5桁で指定してください。桁数が少ない場合は、前にゼロを加えます。例: 00100, 00199



注2: 処理結果テキストファイル(Rファイル)で作成された疑似マスターファイルでは、“変換不可”と表示します。また、“変換中”を継続できない異常なデータがあった場合は、“変換失敗”を表示して終了します。

下は、変換されたテキストデータファイルの、フォーマットです。10分/60分(0.5秒サンプル)で、4チャンネルのデータを、収録したファイルは、下のような順序でデータが入っています。

テキストファイルの内容						テキストファイルの項目の説明			
17185,	0,	0,	226,	1520,	125	測定要素、	未定、	未定、	平均方位、平均水温、機械番号
22,	35,	4,	1,	10,	60	年、	電圧、	チャンネル数、	測定番号、測定時間、測定間隔
1,	63,	50,	16,	7,	1	測定パラメータ1、測定パラメータ2、分、	時、	日、	月
2488,	-3,	11,	2374			水圧(1)、	E流速(1)、	N流速(1)、	水位(1)
2492,	-3,	13,	2377			水圧(2)、	E流速(2)、	N流速(2)、	水位(2)
2495,	-2,	15,	2392			水圧(3)、	E流速(3)、	N流速(3)、	水位(3)
...									
2492,	1,	9,	2394			水圧(1199)、E流速(1199)、N流速(1199)、	水位(1199)		
2491,	3,	8,	2394			水圧(1200)、E流速(1200)、N流速(1200)、	水位(1200)		
17185,	0,	0,	221,	1523,	125				
02,	35,	4,	2,	10,	60				
1,	63,	50,	17,	7,	1				
2459,	3,	5,	2353						
2459,	2,	4,	2356						

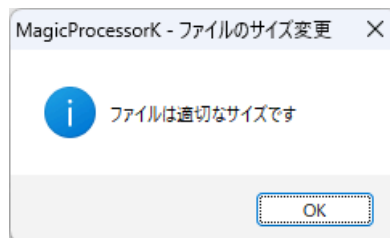
### 8-6. ファイルのサイズ変更

SDカードからコピーしたマスターファイルや、処理結果Rファイルの不要な部分を削除して、ファイルサイズを小さくし、扱いやすくします。

1. MagicProcessorK を実行して、メニュー[ファイル-開く]  で、マスターファイル(WHxxxM. H10)、又は処理結果Rファイル(WHxxxR. H10)を開き、メニュー[表示-処理結果表]  を表示します。

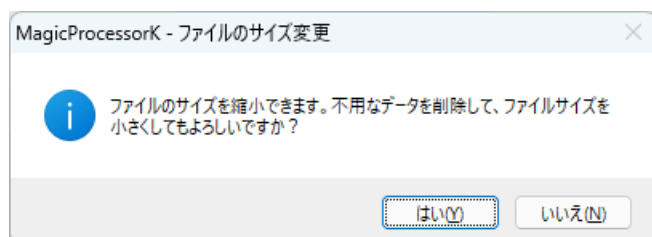
2. メニュー[ファイル-ファイルのサイズ変更]をクリックします。

3. 右図のように、サイズを変更できない場合は[OK]をクリックして終了します。



4. 下図の問い合わせがあり変更できる場合は、[はい]をクリックして実行してください。

5. ステータスバーに“xxxxxx/バイト ファイルサイズ変更中!”を表示します。”xxxxxx/バイト ファイルサイズ変更完了!”の表示で終了です。



注1. 開いたマスターファイル(WHxxxM. H10)、又は処理結果Rファイル(WHxxxR. H10)は、サイズが小さくなり、元のファイルネームで残ります。

注2. 元のファイルは下ののように、サイズ変更時の日時を、追加したファイルネームに変更されて、そのまま保存されます。  
変更後のファイルネーム例: wh003-20260423-112126m.h10

## 8-7. 初期化ファイル

カレントフォルダに、いくつかのオリジナル初期化ファイル(MK48i-xx.org)があります。この初期化ファイルに、アプリケーションを初期化するための設定値が保存されています。

1. メニュー[ファイル-初期化]をクリックすると右図の問い合わせがあります。


2. クリックで、ダウリストを開いて、対象の番号(右図の例では00)を選択して、[OK]をクリックします。

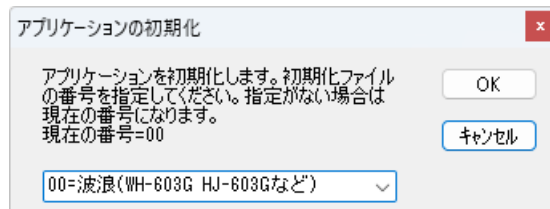
3. オリジナルの初期化ファイルが、カレントの初期化ファイル(MK48i.ini)にコピーされて、アプリケーションが再実行されます。

注:完全にアプリケーションを初期化する場合は、メニュー[ファイル-閉じる]でファイルを閉じてから、メニュー[ファイル-アプリケーションの初期化]を実行します。

初期化ファイル(MK48i.ini)は必要な時、“メモ帳”で編集できます。オリジナルの初期化ファイル(MK48i-xx.org)は、書き換えないようにしてください。

コマンドラインオプションの指定で、“MK48i.ini”の上書きを禁止できます。上書き禁止のときは、メニュー[ウィンドウ-保護状態]にチェックが付き、保護が有効になります。クリックしてチェックはずすと、一時的に、保護を解除できます。解除後グラフや表を変更し、再びクリックすると、その時の状態を、“MK48i.ini”に保存します。

メニュー[ウィンドウ-保護状態]がチェックされていない場合は、メニュー[ファイル-MagicProcessorKの終了]、[閉じる]  など、アプリケーション終了時の状態を、初期化ファイル(MK48i.ini)に保存します。次の実行時、現状を復元できます。



## 8-8. 測定条件設定ファイル(index62. txt)

本体の測定条件は、SDカードの測定条件設定ファイル(index62. txt)を、Windowsの”メモ帳”で開き、測定条件を編集してから、ファイルを上書きすることで変更できます。測定条件は、下記の測定条件オリジナルファイル(index62.org)の項目を選んで、index62. txtに、追加、編集して設定できます。緑はWAVE HUNTER、青はKOBANZAME、黒は両方の装置で使用します。測定条件オリジナルファイル(index62.org)はインストールフォルダにあります。

===== index62. org の内容 =====

01:Send this file to WAVE HUNTER(y/n); n  
02:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); n  
03:Stop measurement of WAVE HUNTER(y/n); n  
04:Reset WAVE HUNTER(y/n); n  
05:Start measurement of KOBANZAME(y/n); n  
06:Stop measurement of KOBANZAME(y/n); n  
07:Reset KOBANZAME(y/n); n  
08:Match WAVE HUNTER's clock to KOBANZAME's clock(y/n); n  
09:Process retry count; 4

11:Measurement time; 20(min.)  
12:Measurement interval; 20(min.)  
13:Sampling interval; 0.5(sec.)  
14:Number of measurement channels; 4

15:Set date/time; 2024/1/1, 0:0:0  
16:Measurement start time; 1:49  
17:Measurement condition M1; 12  
18:WH-5xx Mode(y/n); n  
19:Master file size; 0

21:Height of water pressure gauge from sea bottom; 0.50(m)  
22:Range of principal wave direction; 0 ~ 359(deg.)  
23:Water level correction value; 0.00(m)  
24:Limitation period of long periodic wave; 30 ~ 0(sec.)  
25:Zero-compensation value for current velocity; E=0.00 N=0.00(m/s)  
26:Angular deviation between due north and magnetic north; 0(deg.)  
27:Coordinate transformation (y/n); n  
28:Y mark direction; 360(deg.)  
29:Set Pflag; 0x00

31:Automatic sending interval; 10(min.)  
32:Automatic sending start time; 2:12  
33:Automatic sending count; 1  
34:Automatic sending lag time; 0(sec.)  
35:Send received data immediately(y/n); n  
36:Automatic sending Own-R.TMP file(y/n); y  
37:Automatic sending Own-M.TMP file(y/n); n  
38:Automatic sending Receiving-R.TMP file(y/n); n  
39:Automatic sending Receiving-M.TMP file(y/n); n

41:Number of result line in log; 1  
42:No heading item name(y/n); y  
43:Format of result line in log; 8,9,12,13,25,21,32,34,35,6,0,0,0,0,0  
44:Set measurement number for data collection;Start=0 End=0  
45:No logging(y/n); n  
46:Limit communication time; 50(sec.)

51:Log file overwrite(y/n); n  
52:Data file overwrite(y/n); n  
53:SM-601 power on/off connection(y/n); n

54:Setting the communication speed; 38400(baud)  
55:SM-601 UM05 is eDRX mode(y/n); y  
56:SM-601 eDRX interval 0 or 1; 0  
57:Ubiquitous function on(y/n); y  
58:The only ubiquitous function is clock setting(y/n); y

60:Turn on the option flag bit; 0x00000000  
61:Turn off the option flag bit; 0x00000000  
62:The Current meter is installed upwards(y/n); y  
63:The device is fixed installed(y/n); y  
64:Current meter are measured in XY(y/n); n  
65:Current meter zero correction function disabled(y/n); n  
66:Green lamp function disabled(y/n); n  
67:Water pressure zero correction value; 50(cm)

=====

## 設定値の説明

01:Send this file to WAVE HUNTER(y/n); n                   01:このファイルを WAVE HUNTER に送信します(y/n); n  
[n]=no を [y]=yes にすると、このファイル(サーバー上の index62.txt)をそのまま、WAVE HUNTER に送ります。01 項の  
"y=yes"を読んだ時点で、WAVE HUNTER に送信するので、01 項以後の項目は、KOBANZAME には届かないので無効です。  
21-27 項の処理条件の変更を、WAVE HUNTER に設定するときに使用します。他の項目も有効にしておくか、その項目も  
WAVE HUNTER で変更されるので、必要な項目以外は//でコメント行にしておくか、削除しておきます  
02:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); y           02:WAVE HUNTER の測定を開始します(y/n); y  
[y]では WAVE HUNTER は、パワーオンと同時に、SD カードの測定条件設定ファイル(index62.txt)の条件で、測定起動さ  
れます。  
[n]ではパワーオンで、本体は保管状態になります。本体とパソコンをケーブル接続し、オンライン制御します。  
03:Stop measurement of WAVE HUNTER(y/n); n           03:WAVE HUNTER の測定を停止します(y/n); n  
WAVE HUNTER を測定停止にします。次に 02 項で測定起動されるまで、保管状態になります。  
04:Reset WAVE HUNTER(y/n); n                           04:WAVE HUNTER をリセットします(y/n); n  
WAVE HUNTER を初期化します。Pilot24 からの初期化と違い、測定中でも初期化されます。  
05:Start measurement of KOBANZAME(y/n); n           05:KOBANZAME の測定を開始します(y/n); n  
KOBANZAME24(SM-601)は、1CH(又は 2CH)のアナログ入力を受け付け、自身でも測定収録できます。そのための測定起動  
コマンドです。  
06:Stop measurement of KOBANZAME(y/n); n           06:KOBANZAME の計測を停止します(y/n); n  
KOBANZAME を測定停止にします。次に 05 項で測定起動されるまで、保管状態になります。  
07:Reset KOBANZAME(y/n); n                           07:KOBANZAME の測定をリセットします(y/n); n  
KOBANZAME を初期化します。Pilot24 からの初期化と違い、測定中でも初期化されます。  
08:Match WAVE HUNTER's clock to KOBANZAME's clock(y/n); n   08:WAVE HUNTER の時計を KOBANZAME の時計に合  
わせる(y/n); n  
WAVE HUNTER の時計を KOBANZAME の時計に合わせます。時計合わせは、UM05->KOBANZAME->WAVE HUNTER の  
順序で、それぞれの通信時間などで誤差が出ます。WAVE HUNTER に一番遅れが出ます。  
09:Process retry count; 4                               09:プロセスのリトライ回数; 4  
KOBANZAME->UM-05->サーバと PPP,TCP/IP,FTP を使用して接続します。標準のリトライ回数は 4 回で、4 回失敗を、続けて  
2 回繰り返すと KOBANZAME は強制的に初期化されます  
11:Measurement time; 20(min.)                       11:測定時間; 20(min.)  
測定時間(1~60分)を指定します。  
12:Measurement interval; 20(min.)                   12:測定間隔; 20(min.)  
測定間隔(1~240分)を指定します。  
13:Sampling interval; 0.5(sec.)                     13:サンプリング間隔; 0.5(sec.)  
サンプル間隔(1. 0, 0. 5, 0. 2, 0. 1sec)を指定します。  
14:Number of measurement channels; 4               14:測定チャンネルの数; 4  
測定チャンネル(1=水圧, 2=水圧+水位, 3=水圧+E流速+N流速, 4=水圧+E流速+N流速+水位)を指定します。  
15:Set date/time; 2024/1/1, 0:0:0                   15:日付/時刻を設定します; 2024/1/1 0:0:0

パワーオン日時を設定します。(本体の時計はパワーオン で、この日時に設定されます) SD カードの index62.txt で使用できます。

16:Measurement start time; 1:49

16:測定開始時間; 1:49

測定開始時刻を指定します。上記のパワーオン日時(2024/1/1 0:0)で、この値を0:9に設定した場合は、パワーオンの9分後に、予備測定状態になります。

測定データの日時は、観測終了後に、SDカードのファイルをコピーして、メニュー[ファイル測定日時の更新]で、後から測定日時を割り付けることができます。

17:Measurement condition M1; 12

17:測定条件のM1を設定します;12

bit0=静水,bit1=XY流速,bit2=装置固定設置,bit3=装置向上設置のオンの合計値を、10進数で設定します。

18:WH-5xx Mode(y/n); n

18:装置をWH-5xxのモードに設定します(y/n); n

[y]で本体はパワーオン後、保管状態になり、WH-5xxの本体と同等の動作をします。[n]で、元のWH-6xxの動作に戻ります。

19:Master file size; 0

19:マスターファイルのサイズを指定します; 0

マスターファイルのサイズ0~3を指定します。0=512MB,1=2GB,2=8GB,3=16GB。2、3は本装置では利用できません。

21:Height of water pressure gauge from sea bottom; 0.50(m)

21:海底からの水圧計の高さ; 0.50(m)

水圧変動を水位変動に換算する式に必要です。水圧計は、本体内に取り付けられています。水圧計の海底からの高さ(xx. x m)を、できるだけ正確に指定します。

22:Range of principal wave direction; 0 ~ 359(deg.)

22:主波方向の範囲; 0~359(deg.)

沿岸での波向観測では、陸からの波はないと考え、装置を設置した、海岸線の海側の方位の範囲を指定し、主波向の計算に、正しい指標を与えます。常に、磁北から、時計回りの角度で指定してください。また、磁北をまたぐ時も、330~40のように、時計回りで、指定してください。

23:Water level correction value; 0.00(m)

23:水位補正值; 0.00(m)

処理結果値を水深でなく、水位として表示したい場合は、その補正值(±値)が必要です。水位 = 水深 - 水位補正值で計算されます。

24:Limitation period of long periodic wave; 30 ~ 0(sec.)

24:長周期波の限界周期; 30~0(sec.)

長周期波の処理の周期指定を変更できます。長周期波フィルターの下(短い)限周期~上(長い)限周期を指定できます。

25:Zero-compensation value for current velocity; E=0.00 N=0.00(m/s)

25:流速のゼロ補正值; E=0.00 N=0.00(m/s)

平均 E 流速、平均 N 流速、それぞれの値を、直接、補正する値(±値)です。

26:Angular deviation between due north and magnetic north; 0(deg.)

26:真北と磁北の間の角度偏差; 0(deg.)

真北と磁北の偏角を逆時計回りで指定します。東京では7°。ゼロを指定した時の処理結果は、磁北からの向きになります。

27:Coordinate transformation (y/n); n

27:座標変換(y/n); n

座標変換を実行するかを決定します。y=座標変換する。n=座標変換しない。

28:Y mark direction; 360(deg.)

28:Y マークの方位; 360(deg)

この値を360未満に設定すると、内臓コンパスの測定値を無視して、この設定値を、方位値として処理します。

29:Set Pflag; 0x00

29:Pフラグ(処理フラグ)の値; 0x00

Pフラグ(処理フラグ)の値を8ビットの16進数で指定します。

31:Automatic sending interval; 10(min.)

31:自動送信間隔; 10(min.)

自動送信間隔(分)を KOBANZAME へ指示します。通常は WAVE HUNTER の測定間隔と同じで OK です

32:Automatic sending start time; 2:12

32:自動送信開始時間; 2:12

KOBANZAME に自動送信開始時刻を指定します。2:12 は、汎用自動送信開始時刻です。この値を基準に、現在時刻から、最近の開始時刻を計算して設定します。31 項が 20 分の場合は、毎時、12,32,52 分に自動送信を開始します

33:Automatic sending count; 1

33:自動送信カウント; 1

自動送信(定時通信)時に、送信するデータの測定回数を指定します。デフォルトでは WAVE HUNTER、KOBANZAME 共に 1 回分です。WAVE HUNTER は M ファイルと R ファイルを、処理終了後に自動送信します。

34:Automatic sending lag time; 0(sec.)

34:自動送信ラグタイム; 0(sec.)

35 項が[y]の時、有効になります。WAVE HUNTER、KOBANZAME で通信が重複しないようにするため、送信開始の待ち合わせ時間を、0~255 秒の間で指定します。1 対 1 の通信では、指定不要です。

35:Send received data immediately(y/n); n

35:受信したデータをすぐに送信します(y/n); n

WAVE HUNTER で[y]になっています。WAVE HUNTER は測定終了、処理終了後に、M ファイルと R ファイルをオンラインに出力します。KOBANZAME では[n]になっています。[n]の場合は自動送信が有効になります。もし、KOBANZAME で[y]にした場

合は、WAVE HUNTER から M ファイル、R ファイルの受信後、すぐにインターネットに接続してサーバーに送信します  
下記の 4 つで、別の項目を[y]にする場合は、それまで[y]だった項目を必ず[n]に指定してください。

36:Automatic sending Own-R.TMP file(y/n); y                    36:自分自身の処理結果 R ファイル(R.TMP)を自動送信します(y/n); y

自身が測定した処理結果Rファイル(R ファイル smxxxr.tmp 512byte)をサーバーに送信します

37:Automatic sending Own-M.TMP file(y/n); n                    37:自分自身のマスターファイル(M.TMP)を自動送信します(y/n); y

自身が測定したマスターファイル(M ファイル whxxxm.tmp)をサーバーに送信します

38:Automatic sending Receiving-R.TMP file(y/n); n            38:受信したの処理結果 R ファイル(R.TMP)を自動送信します(y/n); y

KOBANZAME は、WAVE HUNTER から受信した処理結果Rファイル(R ファイル whxxxr.tmp 512byte)をサーバーに送信します

39:Automatic sending Receiving-M.TMP file(y/n); n            39:受信したのマスターファイル(M.TMP)を自動送信します(y/n); y

KOBANZAME は、WAVE HUNTER から受信したマスターファイル(M ファイル whxxxm.tmp)をサーバーに送信します

41:Number of result line in log; 1                                41: ログ内の結果行の数; 1

ログに処理結果を何測定分表示するかを指定します。1 の場合は下記のようになります

2/12 12:50 0.11 2.9 0.07 3.5 ----- 11.40 0.00 ----- 0.0 6

No.003Ms[6](13:10 20/20 R=1.20m), 13:12:27[13:32]AT 4bar,56dB,3.6v,26s,512byte,0,0,0,0

1 行目は、WAVE HUNTER の処理結果(16 項目以内/64 項目を選択)を表示しています。左から順に、日時,最高波高,最高波周期,有義波高,有義波周期,平均波向,水深,流速,流向,水温,測定番号。

2 行目は機械番号,装置状態,[測定番号](測定開始時刻,測定時間/測定間隔,R),送信完了時刻[次の送信時刻]定時送信(大文字は UM-04 パワーオフモード),アンテナ本数,受信強度,電源電圧,送信バイト数,TCP エラー蓄積数,ハンター通信エラー蓄積数,UM-04 接続リトライ蓄積回数,エラー測定回数

42:No heading item name(y/n); y                                42:見出し項目名なし(y/n); y

ログファイルの処理結果に、項目見出しを付けます。

43:Format of result line in log; 8,9,12,13,25,21,32,34,35,6,0,0,0,0,0    43: ログの結果行の形式。

8,9,12,13,25,21,32,34,35,6,0,0,0,0,0

ログの処理結果のフォーマットを 64 項目の中から、16 項目選んで決めます。下記は、超音波波高に変更した指定です

44:Set measurement number for data collection;Start=0 End=0    44:データ収集の測定番号を設定;開始=0 終了=0

自動送信で、データファイルを回収できなかった場合に、後の自動送信時に、過去の測定の M ファイル、R ファイルを回収します。Start=回収開始測定番号、End=回収終了測定番号を指定します。ファイルは 36~39 項で指定されたファイルです。自動送信では、ここで指定されているファイルを先に送信してから、予定のファイルを最後に送信します。

45:No logging(y/n); n    45:ログなし(y/n); n

ログファイルを作成しない場合に[y]にします。

46:Limit communication time; 50(sec.)                        46:通信時間を制限する; 50(sec.)

1 回の自動送信のタイムアウト時間です。通信量に応じて長くする必要があります。M ファイル(20/20)を 3 測定分以上、送信する場合は、長くする必要があります

51:Log file overwrite(y/n); n                                    51:ログファイルの上書き(y/n); n

ログを上書きした場合は、ログファイルには、常に 1 自動送信分のログが残ります。

52:Data file overwrite(y/n); n                                    52:データファイルの上書き(y/n); n

whxxxm.tmp,whxxxr.tmp,smxxxm.tmp,smxxxr.tmp は毎回上書きされ、蓄積されません。常に 1 測定分のデータが残ります

53:KOBANZAME power off mode(y/n); y                        53:KOBANZAME パワーオフモード(y/n); y

UM05=パワーオフモード=接続のたびに、UM05をパワーオン/オフして通信します。

54:Setting the communication speed; 38400(baud)            54:通信速度の設定; 38400(ボー)

WAVE HUNTER のボーレートを変更する場合は、01 項と合わせて使用します。使用しない場合はコメント文にしてください

55:SM-601 UM05 is eDRX mode(y/n); y                        55:SM-601 を eDRX モードにする

KOBANZAME(SM-601)の常時接続運用をeDRXモード(低消費電力モード)に切り替えます。

56:SM-601 eDRX interval 0 or 1; 0                            56:SM-601 の eDRX モードの間隔を0か1を選択する

KOBANZAME(SM-601)のeDRXモードの運用間隔を0(164秒)、1(655秒)を選択する。

57:Ubiquitous function on(y/n); y                            57:ユビキタス機能をオン(y/n); y

ユビキタス機能のオン/オフを指定する

58:The only ubiquitous function is clock setting(y/n); y    58:ユビキタス機能は時計合わせだけに使用する(y/n); n

ユビキタス機能をパワーオン時の時計合わせだけに使用する場合、yにします。サーバ接続も利用する場合は、nとする

60:Turn on the option flag bit; 0x00000000                    60:オプションフラグのビットをセット; 0x00000000

装置のオプションフラグを、一時的にセット(オン)します。装置のパワーオフで無効になります

61:Turn off the option flag bit; 0x00000000

61:オプションフラグのリセット; 0x00000000

装置のオプションフラグを、一時的にリセット(オフ)します。装置のパワーオフで無効になります

62:The Current meter is installed upwards(y/n); y

62:流速計を上向設置(y/n); y

流速計の上向(y)／下向(n)設置を指定します

63:The device is fixed installed(y/n); y

63:装置(本体)は固定設置(y/n); y

装置の固定(y)／吊り下げ(n)設置を指定します

64:Current meter are measured in XY(y/n); n

64:流速計はXY測定(y/n); n

流速計は内臓コンパスの方位で、EN流速に変換せずに、Yマークを基準としたXY成分流速として測定する場合に使用します

65:Current meter zero correction function disabled(y/n); n

65:流速計のゼロ補正機能を停止(y/n); n

流速計のゼロ補正機能を停止する

66:Green lamp function disabled(y/n); n

66:グリーンランプ機能を停止(y/n); n

グリーンランプ機能(取得データの良否判定機能)を停止する

67:Water pressure zero correction value; 50(cm)

67:水圧計のゼロ補正值: 50(cm)

水圧計のゼロ補正值を指定します。デフォルトは50cm

## 9-1. 表をExcelのセルに読み込むには

1. 表を、Excelのセルに入れるには、カレントフォルダの、ファイル“WH22G. TXT”、“WH23G. TXT”、“WH24G. TXT”を利用します。“WH22G. TXT”は、生データ表、“WH23G. TXT”には処理結果表、“WH24G. TXT”にはスペクトルグラフの値が、そのまま入っています。これをExcelのセルに読み込みます。
2. Excelのメニュー[ファイル-開く]で、“WH22G. TXT”を選んで開きます。[テキストファイルウィザード]で、[データ形式]-[カンマやタブなどの区切り. . . ]または、[スペースによって右または左. . . ]を選び、[次へ]をクリックします。
3. 区切りが、最適になるように調整して、[次へ]をクリックし、[完了]で値をセルに読み込みます。不用な列を削除して、フォーマットを整えます。

## 9-2. Excelで表の貼り付け

1. 通常のWindowsの“コピー”、“貼り付け”と同じです。表のコピーしたい部分を、マウスでドラッグして選択します。メニュー[編集-コピー]で、コピーします。
2. Excelの貼り付けたい場所に、カーソルを合せて、Excelのメニュー[編集-形式を選択して貼り付け]の、[貼り付ける形式]-テキストを選んで貼り付けます。この場合は、単にテキストとして、貼り付けられます。

## 9-3. Excelでグラフの貼り付け

1. コピーしたいグラフのウィンドウを、クリックして選択します。メニュー[編集-コピー]で、コピーします。
2. Excelの貼り付けたい場所に、カーソルを合せて、Excelのメニュー[編集-形式を選択して貼り付け]の、[貼り付ける形式]-ビットマップを選んで貼り付けます。

## 9-4. Wordで 表の貼り付け

1. 通常のWindowsの“コピー”、“貼り付け”と同じです。表のコピーしたい部分を、マウスでドラッグして選択します。メニュー[編集-コピー]で、コピーします。
2. Wordの文章の、貼り付けたい場所に、カーソルを合せて、Wordのメニュー[編集-形式を選択して貼り付け]の、[貼り付ける形式]-テキストを選んで貼り付けます。

## 9-5. Wordでグラフの貼り付け

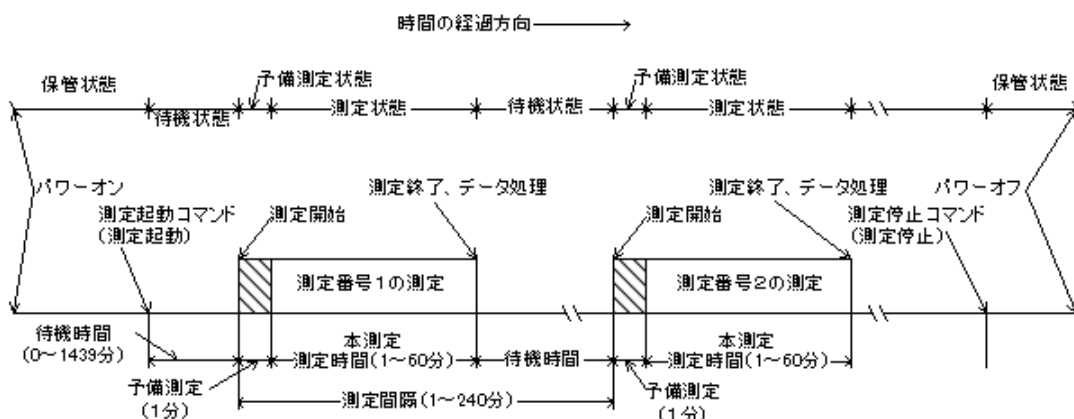
1. コピーしたいグラフのウィンドウを、クリックして選択します。メニュー[編集-コピー]で、コピーします。
2. Wordの文章の、貼り付けたい場所に、カーソルを合せて、Wordのメニュー[編集-形式を選択して貼り付け]の、[貼り付ける形式]-ビットマップ(DIB)を選んで貼り付けます。

## 10-1. 測定タイムチャート

測定時間、測定間隔、測定番号など、言葉の定義は、下図を参考にしてください。

### オンライン制御時のタイムチャート

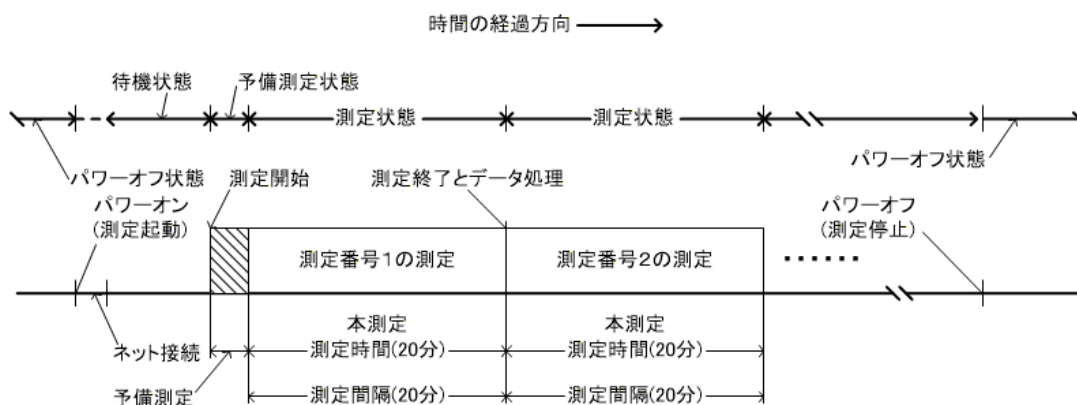
測定条件設定ファイル(index62. txt)のO2項:02:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); n



動作確認ランプ点灯間隔 保管状態:0.5秒/10分 待機状態:0.5秒/1分 予備状態測定:0.02秒/1秒 測定状態:0.02秒/サンプル間隔

### オフライン制御時のタイムチャート(ユビキタス機能が利用できる場合)

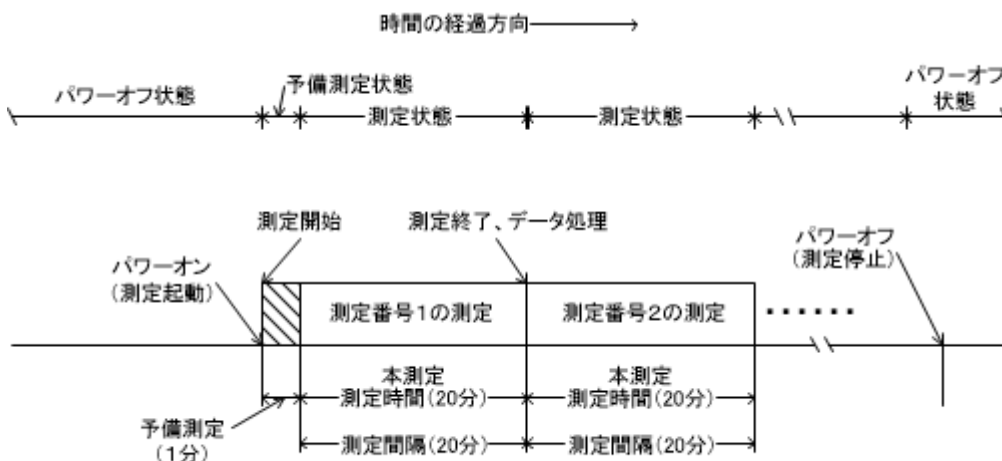
測定条件設定ファイル(index62. txt)のO2項:2:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); y



動作確認ランプの点滅間隔 待機状態:1秒/1秒 予備測定(ネット接続)状態:0.02秒/1秒 測定状態:0.02秒/サンプル間隔

### オフライン制御時のタイムチャート(ユビキタス機能が利用できない場合)

測定条件設定ファイル(index62. txt)のO2項:2:Start measurement of WAVE HUNTER(y/n); y



動作確認ランプ点灯間隔 待機状態:0.5秒/1分 予備状態測定:0.02秒/1秒 測定状態:0.02秒/サンプル間隔